

CASIO

HANDY TERMINAL DT-870

アプリケーション機能解説書

Ver2.00

Copyright© 2003 CASIO COMPUTER CO., LTD.

All rights reserved.

目次

§1 . 概要	4
1-1.MICROSOFT APPLICATION	4
1-1-1.本体内蔵 <i>Application</i>	4
1-1-2.本体内蔵 <i>Module</i>	4
1-1-3.ホストユーティリティ	5
1-2.CASIO ORIGINAL APPLICATION	5
1-2-1.本体内蔵 <i>Application</i>	5
1-2-2.インストールソフトウェア	5
1-2-3.ホストユーティリティ	5
§2 . MICROSOFT APPLICATION	6
2-1.本体内蔵 APPLICATION	6
2-1-1. <i>File Explorer</i>	6
2-1-2. <i>ActiveSync</i> クライアント	6
2-1-3. <i>SIP</i>	8
2-1-4. <i>PocketIME</i>	8
2-1-5. <i>PC</i> との接続	8
2-1-6.アプリケーションの削除	9
2-1-7.システム	9
2-1-8.スタイラス	10
2-1-9.ダイヤル	10
2-1-10.ネットワークとダイヤルアップ接続	10
2-1-11.パスワード	11
2-1-12.パワーマネージメント	11
2-1-13.ボリューム & サウンド	12
2-1-14.画面	12
2-1-15.記憶領域マネージャ	13
2-1-16.所有者情報	15
2-1-17.証明書	15
2-1-18.地域	16
2-1-19.日付/時刻	17
2-1-20.入力パネル	17
2-1-21. リモートデスクトップ接続	18
2-2.ホストユーティリティ	20
2-2-1. <i>ActiveSync3.5</i>	20

§3 . CASIO APPLICATION.....	21
3-1.本体内蔵 APPLICATION.....	21
3-1-1.受信トレイ.....	21
3-1-2.ブラウザソフト.....	23
3-1-3.WELCOME ウィザード.....	24
3-1-4.バックアップツール.....	24
3-1-5.FLCE.....	27
3-1-6.コントラスト/バックライトユーティリティ.....	37
3-1-7.自動セットアップ.....	38
3-1-8.FCHKCE.....	39
3-1-9.無線 LAN 設定ツール.....	44
3-1-10.Bluetooth 設定ツール.....	45
3-1-11.2Dスキャナアプリケーション.....	54
3-1-12.電卓.....	76
3-1-13.本体コピーツール.....	78
3-1-14.ブザー設定.....	79
3-1-15. IME 設定ツール.....	80
3-2.ホストユーティリティ.....	83
3-3-1.LMWIN.....	83

§ 1. 概要

本解説書は、ハンディターミナル DT-870 に搭載するアプリケーションの機能仕様に関して述べたものです。

1-1. Microsoft Application

Microsoft が提供する Application 及び Module について説明します。

1-1-1. 本体内蔵 Application

本体 ROM に内蔵される Microsoft Application は以下のとおりです。

ソフトウェア名	機能
File Explorer	エクスプローラ
受信トレイ	電子メールの送受信プログラム
ActiveSync クライアント	アクティブシンク
SIP	ソフトウェアキーボード
PocketIME	仮名漢字変換
SHELL	シェル
PC との接続	PC との接続方法を指定
アプリケーションの削除	インストールされたアプリケーションの削除
システム	システム情報の設定及び表示
スタイラス	スタイラスの設定
ダイヤル	電話回線使用時のダイヤルパターンの設定
ネットワークとダイヤルアップ接続	ネットワークとダイヤルアップ接続の作成
パスワード	起動時に入力するパスワードの設定
パワーマネジメント	バッテリー状態表示 / サスペンドモード移行時間
ボリューム&サウンド	音量 / 音を鳴らす場面の設定
画面	背景 / 配色 / バックライト消灯までの時間設定
記憶領域マネージャ	FROM のフォーマット
所有者情報	所有者に関する情報の設定
証明書	証明書の編集
地域	表記の設定 (言語 / 数値 / 通貨 / 日付時刻)
日付/時刻	日付及び時刻の設定
入力パネル	入力パネル使用時の入力方法の設定
リモートデスクトップ接続	リモートデスクトップ機能

「PC との接続」以降はコントロールパネル内にあるアプリケーションです

1-1-2. 本体内蔵 Module

本体 ROM に内蔵される Microsoft Module は以下のとおりです。

ソフトウェア名	機能
OBEX	ObjectExchangeProtocol
XML	MSXML3.0
VPN	VirtualPrivateNetwork(PPTP)
Jscript	JScript5.5
Network redirector	PC とのネットワーク共有

1-1-3.ホストユーティリティ

ホスト(PC)側で使用する Microsoft Application は以下のとおりです。

ソフトウェア名	機能
ActiveSync3.5	Microsoft 提供のデータリンク SOFT

1-2.CASIO Original Application

CASIO が提供する Application について説明します。

1-2-1.本体内蔵 Application

本体 ROM に内蔵されているアプリケーションは以下のとおりです。

ソフトウェア名	機能
ブラウザソフト	IE 5.5 モジュール採用ブラウザ
FLCE	通信ユーティリティ
FCHKCE	ファイルチェックユーティリティ
自動セットアップ	リセット時の自動プログラム実行
バックアップツール	バックアップツールユーティリティ
Contrast/Backlight	コントラスト/バックライト設定ツールユーティリティ
Buzzer 設定	ブザー音量/音質設定ツールユーティリティ
本体充電ツール	端末間充電ユーティリティ
電卓	四則演算ユーティリティ
Welcome ウィザード	Welcome 起動設定ツールユーティリティ
無線 LAN 電力設定ツール 1	無線 LAN の使用、及び電力設定
2D 設定ツール	読み取りパラメータ、動作設定
2D 読み取りアプリケーション	コード読み込み
Bluetooth 設定ツール 2	Bluetooth 接続、及び環境設定ツールユーティリティ
IME 設定	IME ツールボックスの表示・非表示を設定

- 1 印のあるユーティリティは、無線 LAN 内蔵モデルのみ使用可能
- 2 印のあるユーティリティは、Bluetooth 内蔵モデルのみ使用可能
- 3 印のあるユーティリティは、カメラ内蔵モデルのみ使用可能

1-2-2.インストールソフトウェア

本体 ROM に内蔵されないアプリケーションは以下のとおりです。

使用する際には、予め本体にインストールする必要があります。

ソフトウェア名	機能
ソフトフォン	VoIP ソフトウェア

印のあるユーティリティは、無線 LAN 内蔵モデルのみ使用可能

1-2-3.ホストユーティリティ

ホスト(PC)側で使用するアプリケーションは以下のとおりです。

ソフトウェア名	機能
LMWIN	FLINK による Up/DownLoader

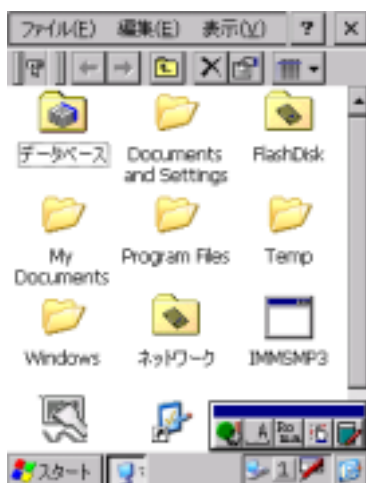
§ 2 . Microsoft Application

2-1.本体内蔵 Application

本体に内蔵される Microsoft Application について説明します。

2-1-1.File Explorer

Microsoftが提供するファイル管理プログラムです。



2-1-2.ActiveSync クライアント

Microsoftが提供する PC との通信を行うためのクライアントプログラムです。

(1)PC との ActiveSync の接続法

パソコンとのシリアルによる接続は、以下のような手順により行います。

1. [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]を選択して、コントロールパネルを開きます。
2. コントロールパネルの中の「PC との接続」を選択します。
3. PC との接続が“シリアル”であることを確認します。

“シリアル”でなかった場合は、PC との接続の変更ボタンを押して、リストボックスから“シリアル”を選んで [OK]ボタンを押します。PC との接続ダイアログも[OK]ボタンを押して終了します。

4. パソコンとシリアルケーブルで接続すると、パソコンにインストールされている ActiveSync が自動的に起動されます。パソコンとシリアルケーブルで接続しても ActiveSync が自動的に起動されなかった場合は Windows フォルダ内にある「repllog.exe」を起動してパソコンとの接続を行ってください。

ブリッジ サテライト クレードル経由での PC との ActiveSync 接続については、BS/BB IO ボックス 解説書を参照願います。

(2)ActiveSync でのファイルの同期について

本機の MyDocument フォルダ内にパソコンとの同期ファイルを置くことができます。

本機では、OutLook アプリケーションとの同期(仕事、予定表、連絡先)は行うことは出来ません。

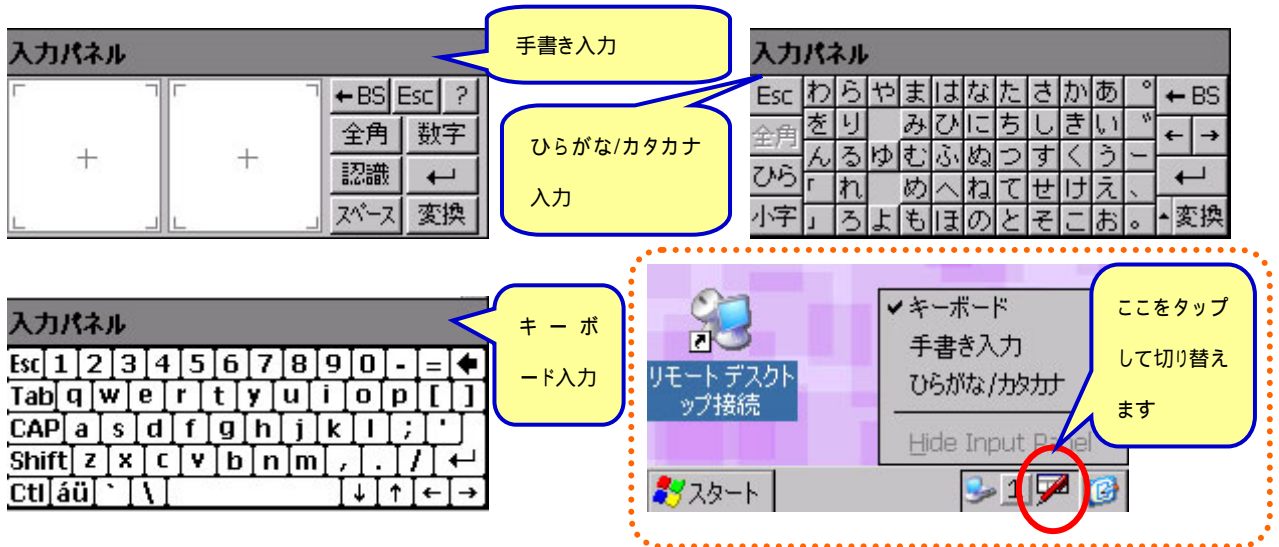
(3) LANを利用した ActiveSync 接続法

パソコンとのLAN経由による接続は、以下のような手順により行います。

1. IrDA, シリアル及びIoBOXを利用して、パソコンとパートナーシップを結びます。
2. 接続又は、ケーブルを抜きLANを動作させます。
3. [スタート]-[プログラム]-[通信]-[LAN ActiveSync]を選択します。
4. ダイアログが表示されるので、「ネットワーク接続」を選択して接続します。

2-1-3.SIP

Microsoftが提供するソフトウェアキーボードです。



2-1-4.PocketIME

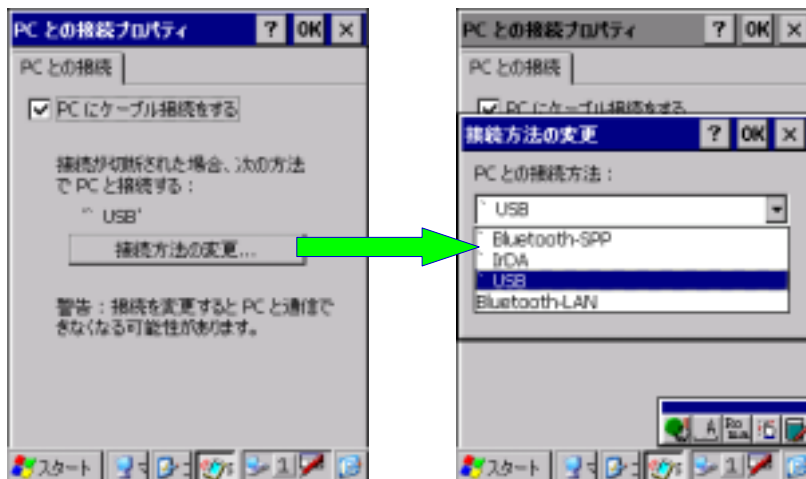
Microsoftが提供する仮名漢字変換ソフトウェアです。

人名及び地名辞書をもっています。



2-1-5.PC との接続

コントロールパネルにある、PC との接続方法を設定するツールです。



2-1-6.アプリケーションの削除

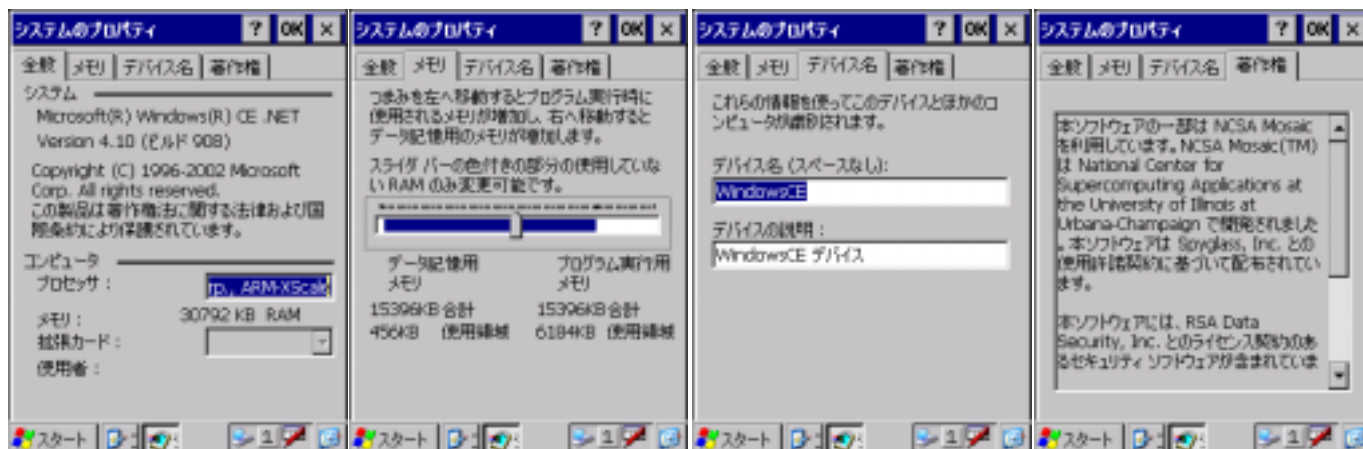
コントロールパネルにある、インストールされているプログラムを削除するツールです。

本体に内蔵されているプログラムは削除できません。



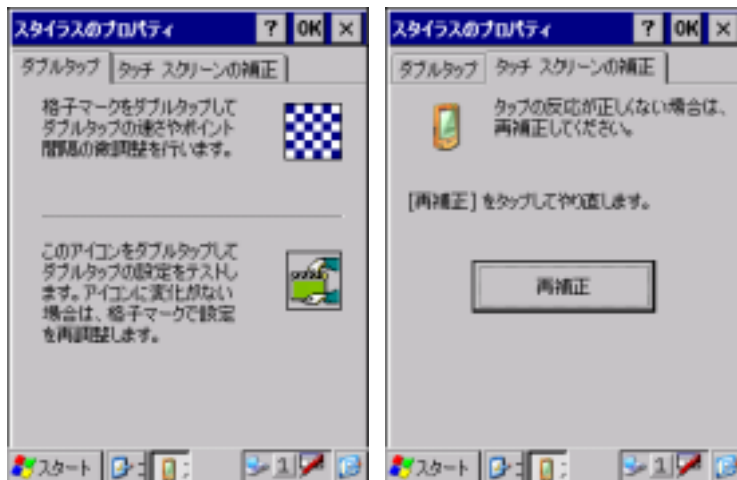
2-1-7.システム

コントロールパネルにある、ハードウェア情報の確認 / メモリの割り当ての設定 / デバイス名称の設定 / 著作権情報の確認を行うツールです。



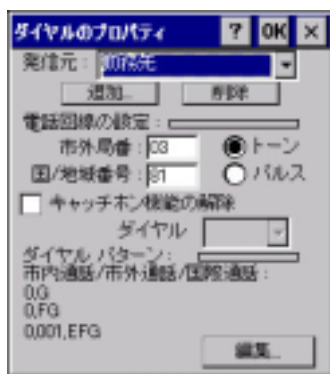
2-1-8.スタイラス

コントロールパネルにある、ダブルタップの速度調整及びタッチパネルの座標補正を行うツールです。



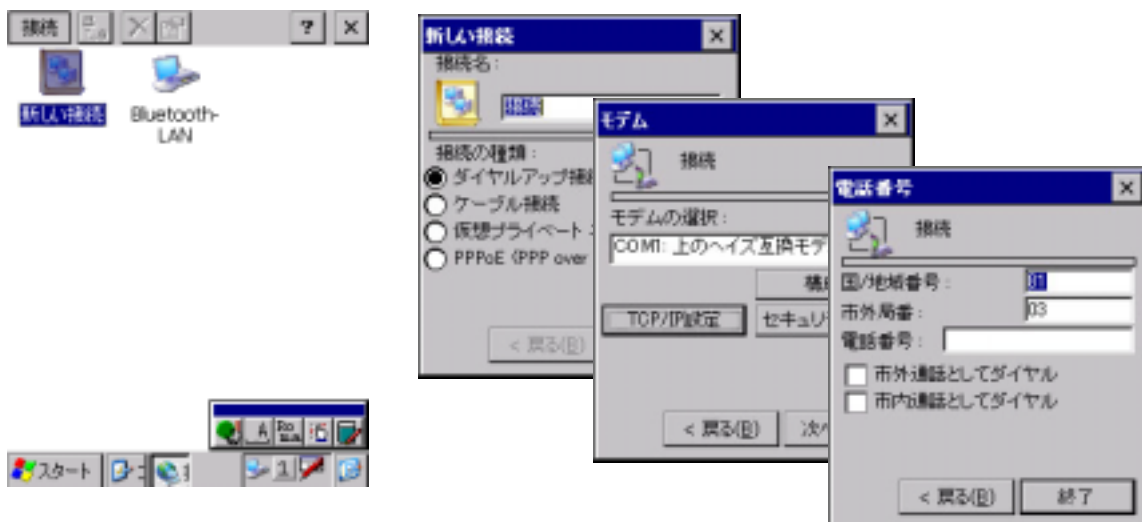
2-1-9.ダイヤル

コントロールパネルにある、電話回線を使って通信する時のダイヤルパターンを設定するツールです。



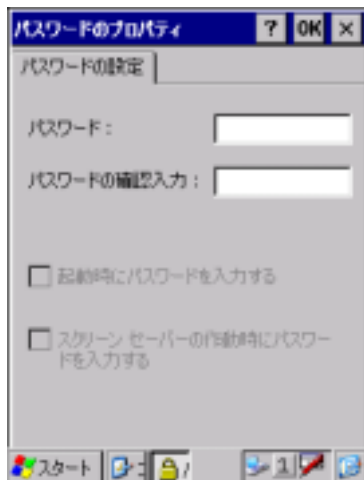
2-1-10.ネットワークとダイヤルアップ接続

コントロールパネルにある、ネットワークとダイヤルアップの接続を作成するツールです。



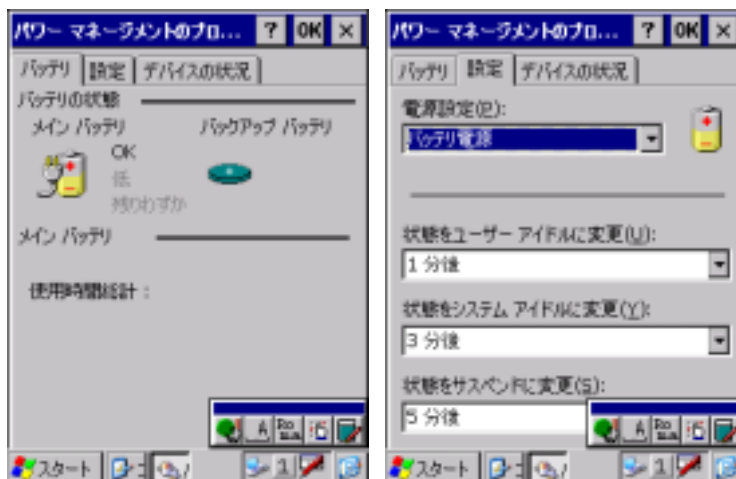
2-1-11.パスワード

コントロールパネルにある、本体起動前に入力するパスワードを設定するツールです。



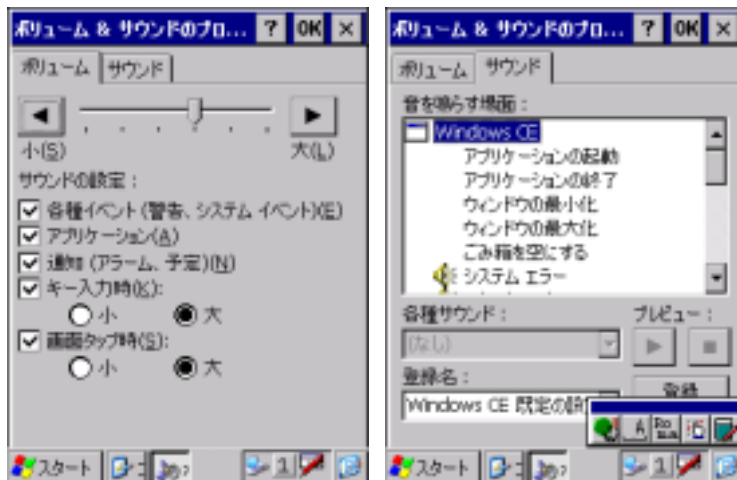
2-1-12.パワーマネージメント

コントロールパネルにある、使用していないときに自動的に電源を切断するまでの時間 / 省電力動作モードの設定 / バッテリーの残量の確認を行うツールです。



2-1-13.ボリューム&サウンド

コントロールパネルにある、音量の調整及び音を鳴らす場面と音の種類の設定を行うツールです。



2-1-14.画面

コントロールパネルにある、背景/デスクトップの配色/バックライト消灯までの時間を設定するツールです。



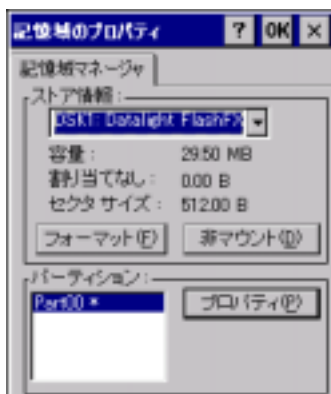
2-1-15.記憶領域マネージャ

コントロールパネルにある、FROM のフォーマットを行うツールです。

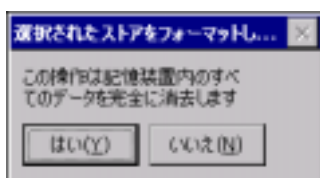
FROM のフォーマットを実行すると、FlashDisk 内にあるフォルダ及びファイルは全てクリアされます。

FROM をフォーマットする手順には2通りあります。

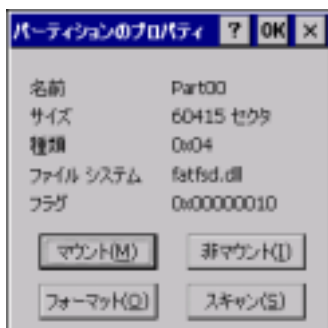
【手順1】



記憶域のプロパティ画面で[非マウント]ボタンをタップして、フォーマット可能な状態(パーティションの"*"がない状態)にします。
[フォーマット]ボタンをタップすると、確認ダイアログが表示されます。



確認ダイアログで[はい]をタップするとフォーマットを開始します。
フォーマットが終了すると、フォーマット完了のメッセージが表示されます。

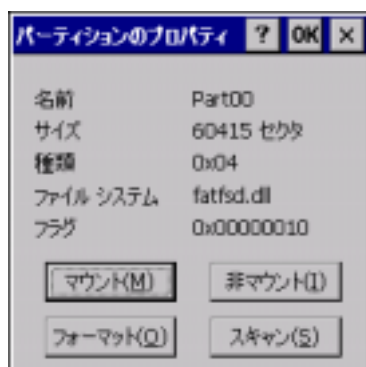


記憶域のプロパティ画面に戻り、[プロパティ]ボタンをタップしてパーティションのプロパティ画面を表示します。

最後に[マウント]ボタンをタップして、FROM のフォーマットは完了します。

なお、マウントを実行しないと、FROM (FlashDisk) にファイルを書き込むことができません。

【手順2】



記憶域のプロパティ画面で[プロパティ]ボタンをタップすると、パーティションのプロパティ画面が表示されます。

[非マウント]ボタンをタップしてフォーマット可能な状態(フラグの値が0)にします。

[フォーマット]ボタンをタップすると、フォーマット画面が表示されます。



[スタート]ボタンをタップすると確認ダイアログが表示され、
[はい]をタップするとフォーマットを開始します。



フォーマットが終了すると、フォーマット完了のメッセージが
表示されます。
最後に、パーティションのプロパティ画面に戻り、[マウント]
ボタンをタップして、FROMのフォーマットは完了します。
なお、マウントを実行しないと、FROM (FlashDisk) にファイル
を書き込むことができません。

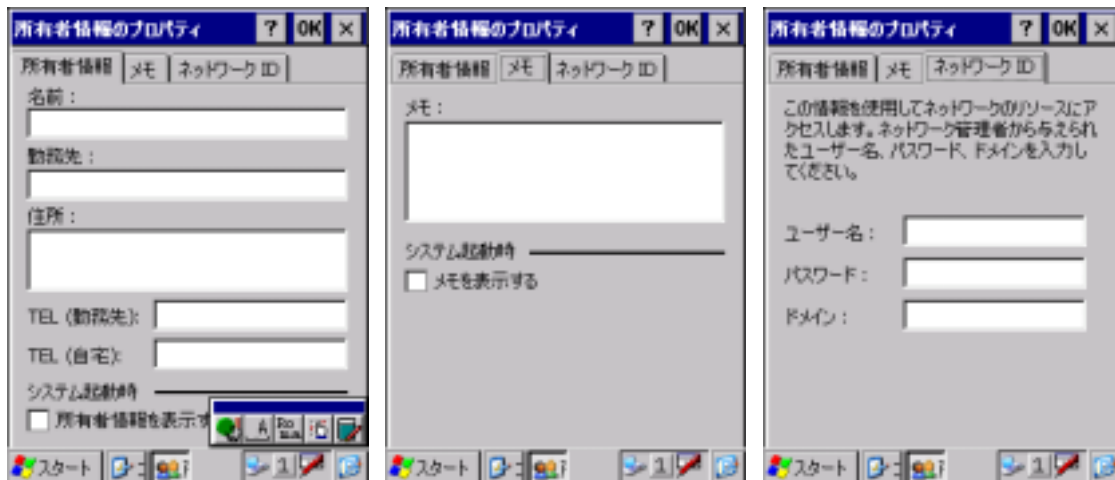
< サービスパック対応後 >



記憶域のプロパティ画面が左図のように修正されました。
フォーマットの手順は、[手順2]の方法のみの対応になりました。

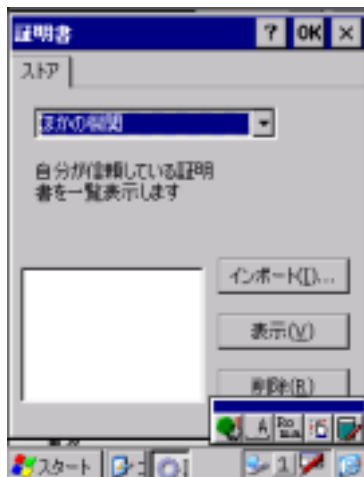
2-1-16.所有者情報

コントロールパネルにある、所有者に関する情報を設定するツールです。



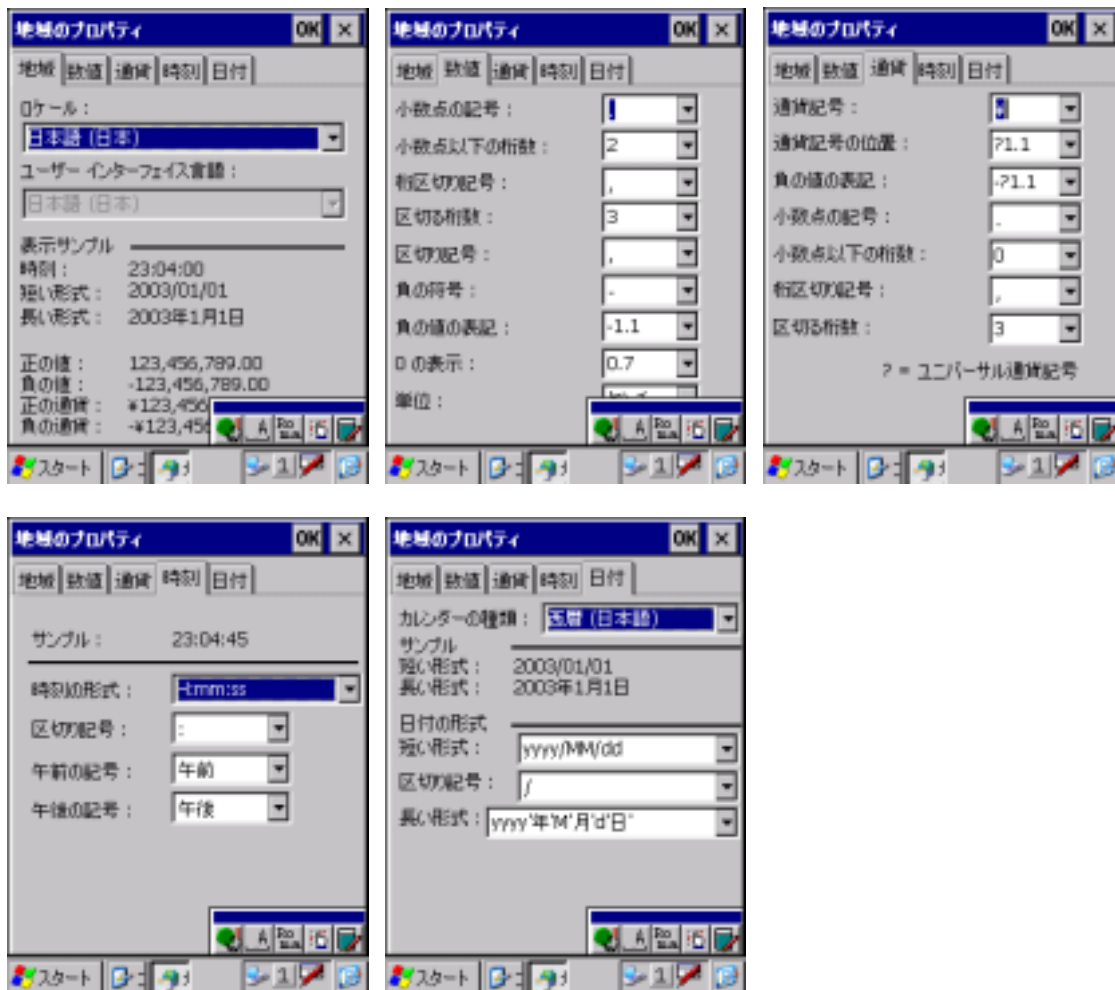
2-1-17.証明書

コントロールパネルにある、信頼する証明書一覧を編集するツールです。



2-1-18.地域

コントロールパネルにある、地域 / 数値 / 通貨 / 日付 / 時刻の表示方法や書式を設定するツールです。



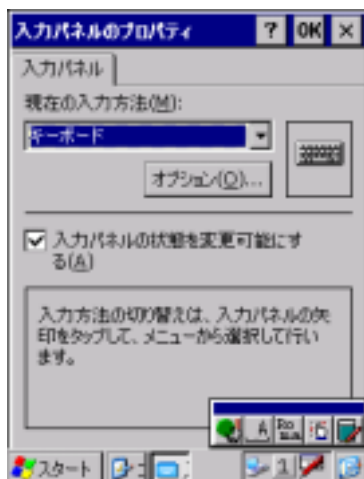
2-1-19.日付/時刻

コントロールパネルにある、日付及び時刻を設定するツールです。



2-1-20.入力パネル

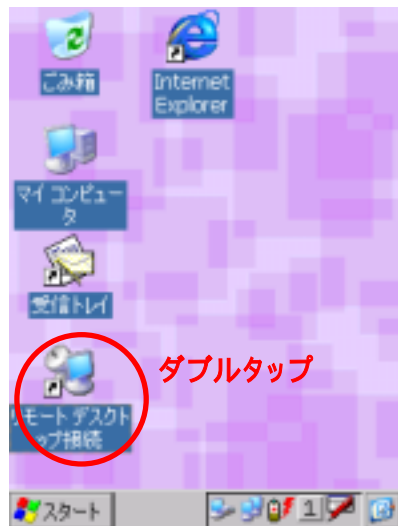
コントロールパネルにある、入力パネル使用時の入力方法を設定するツールです。



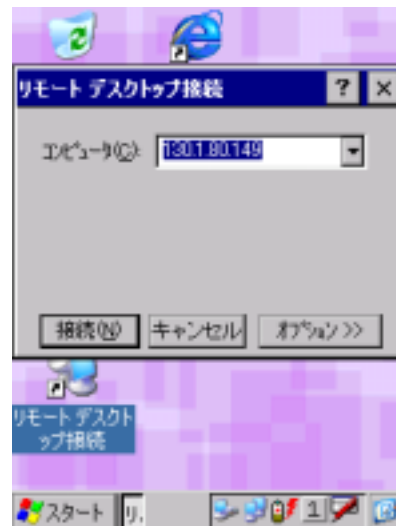
2-1-21. リモートデスクトップ接続

Microsoft のリモートデスクトップ機能を用いて、Windows2000Server や WindowsXP マシンをリモート操作することができます。

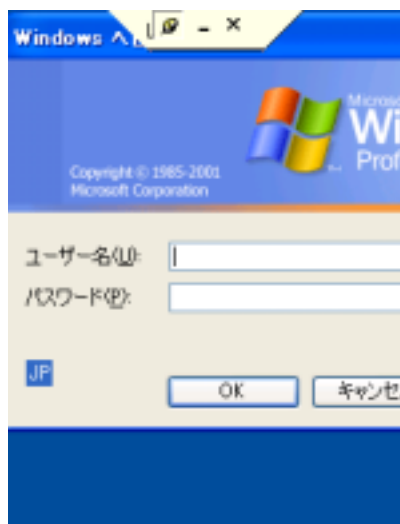
デスクトップにある「リモートデスクトップ接続」をダブルタップします。



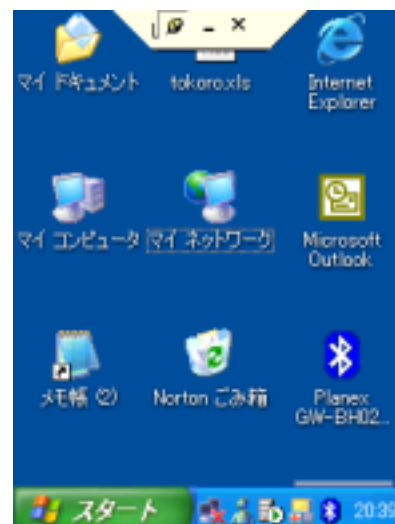
接続先となるコンピュータのコンピュータ名、または IP アドレスを入力します。



相手先のユーザー名、パスワードを入力します。



接続が完了し、接続先のデスクトップ画面が表示されます。



<リモートデスクトップ接続時のスキャナ出力方法>

下記事項は、DT-870 に ServicePack1 のインストールがされていることを前提としています。

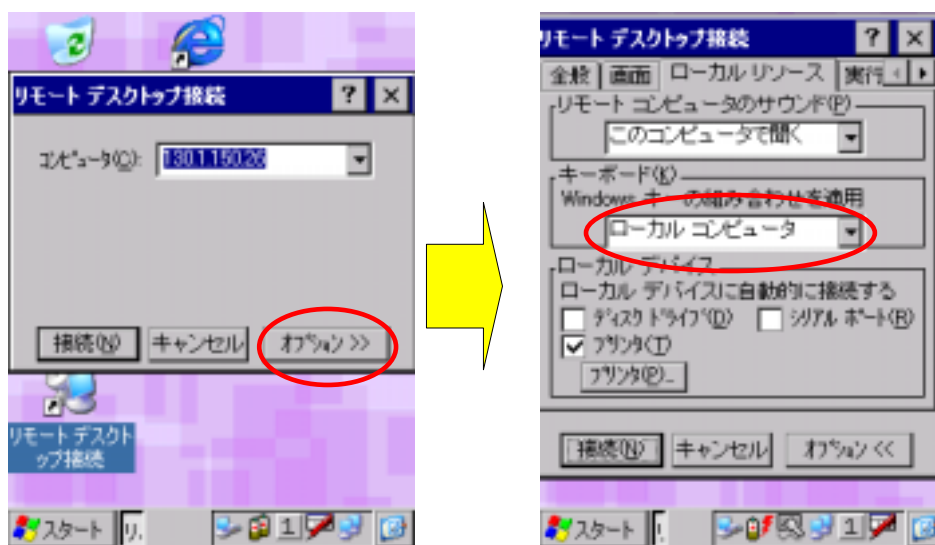
リモートデスクトップ接続を行い、接続先の Word や Excel などのテキスト領域に、DT-870 の2D スキャナから読み取った値を出力する際には、下記のような手順が必要となります。

1. 接続前の設定

DT-870 側 リモートデスクトップ接続の[オプション] [ローカルリソース]タブのキーボード指定を「ローカルコンピュータ指定」にします。

「リモートコンピュータ指定」だと、DT-870 でトリガキーを押下してもバーコードの読取り動作を行いません。

Word 等は自動校正機能があり、その機能を無効にしないと正しくバーコードの読取り動作を行いません。



2. 接続後の設定

～ Microsoft アプリケーションの場合～

バーコードを読む前に、DT-870 側のタスクバーをタップしてから、リモートデスクトップ上のアプリケーションをタップします。

(リモートデスクトップ初回接続後、1 回行えば、Word、Excel、OutLookExpress は以降問題なく動作します。)

～ その他のアプリケーションの場合(メモ帳など)～

バーコードを読む前は必ず DT-870 のタスクバーをタップした後、アプリケーションのウィンドウのタップを行ってください。(バーコードを読む前には毎回行ってください)

2-2.ホストユーティリティ

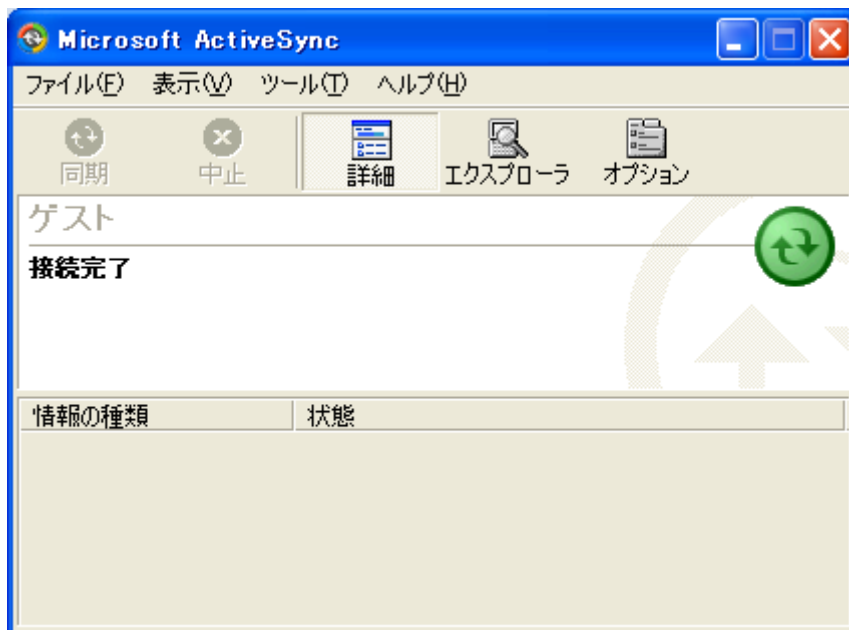
ホスト(PC)にインストールされる Microsoft Application について説明します。。

2-2-1.ActiveSync3.5

Microsoftが提供する端末と通信を行うための PC 側のソフトウェアです。

カシオからこのツールは提供していません。以下のサイトから入手可能となっております。

<http://www.microsoft.com/japan/mobile/pocketpc/downloads/activesync3.5.asp>



§ 3 . CASIO Application

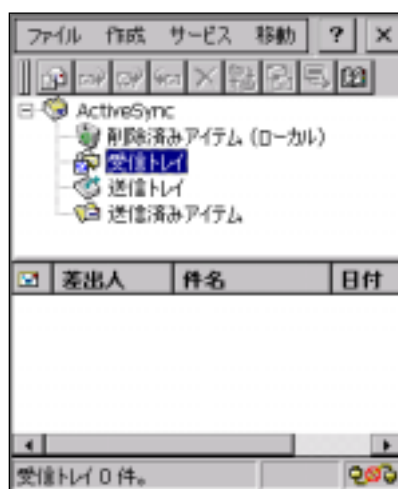
3-1.本体内蔵 Application

CASIO が提供する本体に内蔵される Application について説明します。

3-1-1.受信トレイ

メールは、Microsoft の Inbox モジュールを使用したメールソフトです。

メイン画面 / 表示及び作成画面の2つの画面で構成され、メールの送受信、転送、返送、ファイル添付送信が可能です。



メイン画面は指定したフォルダ下にあるメールをリスト表示します。

メニューの構成は以下のとおりです。

[ファイル] - [開く]	: 指定したメールを開く
[ファイル] - [移動]	: 指定したメールを移動
[ファイル] - [コピー]	: 指定したメールをコピー
[ファイル] - [削除]	: 指定したメールを削除
[ファイル] - [フォルダ]	: フォルダの新規作成と名称変更
[ファイル] - [削除済みアイテムを空にする]	: [削除済みアイテム] 内のメールを削除
[ファイル] - [終了]	: 終了
[作成] - [メッセージの作成]	: メールの新規作成
[作成] - [差出人へ返信]	: 差出人への返信メールの作成
[作成] - [全員へ返信]	: 全員への返信メールの作成
[作成] - [転送]	: 転送メールの作成
[作成] - [状態]	: メール件数の表示
[サービス] - [接続]	: 指定したサービスでメールサーバに接続
[サービス] - [オフラインフォルダ]	: 指定したフォルダをオフライン用にする
[サービス] - [メールを送受信]	: メールを送受信
[サービス] - [フォルダの同期]	: フォルダの同期
[サービス] - [すべてクリア]	: 選択したテキストの削除
[サービス] - [全文をサーバーからコピー]	: メッセージの全文をサーバーからコピー
[サービス] - [オプション]	: オプション設定

[移動] - [アドレス帳] : アドレス帳の編集

ツールバーアイコンの構成は以下のとおりです。

[メッセージの作成] : メールの新規作成
 [差出人へ返信] : 差出人への返信メールの作成
 [全員へ返信] : 全員への返信メールの作成
 [転送] : 転送メールの作成
 [削除] : メール削除
 [オフラインフォルダ] : 指定したフォルダをオフライン用にする
 [メールの送受信] : メール送受信
 [接続] : 指定したサービスでメールサーバに接続



表示画面はメイン画面で指定したメールのヘッダ部(差出人 / CC / 件名)と本文を表示します。

作成画面はメイン画面で指定したメールのヘッダ部(宛先 / CC / 件名)と本文を表示します。

メニューの構成は以下のとおりです。

[ファイル] - [送信] : 作成したメールの送信
 [ファイル] - [上書き保存] : 作成したメールの保存
 [ファイル] - [添付ファイル] : 添付ファイルを開く / 追加 / 表示
 [ファイル] - [大きいフォント] : 大きいフォントで表示
 [ファイル] - [閉じる] : 表示及び作成画面を閉じる
 [編集] - [元に戻す] : 1つ前の状態に戻す
 [編集] - [切り取り] : 選択したテキストの切り取り
 [編集] - [コピー] : 選択したテキストのコピー
 [編集] - [貼り付け] : クリップボードにあるテキストの貼り付け
 [編集] - [すべて選択] : 画面上のすべてのテキストを選択状態にする
 [編集] - [クリア] : 選択したテキストの削除
 [編集] - [言語] : 表示する言語の指定
 [作成] - [宛先の確認] : 入力した宛先のチェック
 [作成] - [アドレス帳] : アドレス帳の編集
 [作成] - [ヘッダーの表示] : ヘッダーの表示
 [作成] - [オプション] : オプション設定

ツールバーアイコンの構成は以下のとおりです。

[送信] : 作成したメールの送信

[切り取り]	: 選択したテキストの切り取り
[コピー]	: 選択したテキストのコピー
[貼り付け]	: クリップボードにあるテキストの貼り付け
[ファイルの添付]	: 添付ファイルの追加
[添付ファイルの表示]	: 添付ファイルの表示

3-1-2. ブラウザソフト

ブラウザソフトは、Microsoft の Internet Explorer 5.5 のモジュールを使用したソフトウェアです。

セキュリティ機能は、TLS Ver. 1.0, SSL Ver. 2.0 and 3.0, SGC をサポートします。

また、搭載する JScript5.5 は、ECMA 262 language specification (ECMAScript Edition 3)に準拠しています。

モジュールの詳細については、下記の URL を参考願います。

<http://msdn.microsoft.com/library/default.asp?url=/library/en-us/wcie55/htm/cerefInternetExplorer55.asp?frame=true>



ツールバーアイコンの構成は以下のとおりです。

	1つ前のページに戻る
	次のページに進む
	現在のページをリロードして更新する
	スタートページを表示する
	お気に入りメニューの表示
	・お気に入りへの追加及び編集
	・お気に入りのページの表示

メニューの構成は以下のとおりです。

[メニュー] - [開く]	: HTML, JPEG ファイルの表示
[メニュー] - [名前を付けて保存]	: HTML, TEXT, GIF, BMP 形式での保存
[メニュー] - [編集]	: ページ内のテキストの編集
[メニュー] - [画面に合わせる]	: ページの縮小表示切替
[メニュー] - [アドレスバー]	: アドレスバー表示切替
[メニュー] - [文字のサイズ]	: 表示文字の大きさの指定
[メニュー] - [言語の指定]	: 表示文字の指定
[メニュー] - [履歴]	: 履歴リストにあるページへの移動
[メニュー] - [ページの検索]	: ページ内のテキストの検索
[メニュー] - [オプション]	: セキュリティ等のオプション設定
[メニュー] - [プロパティ]	: ページのプロパティ表示
[メニュー] - [終了]	: ブラウザの終了

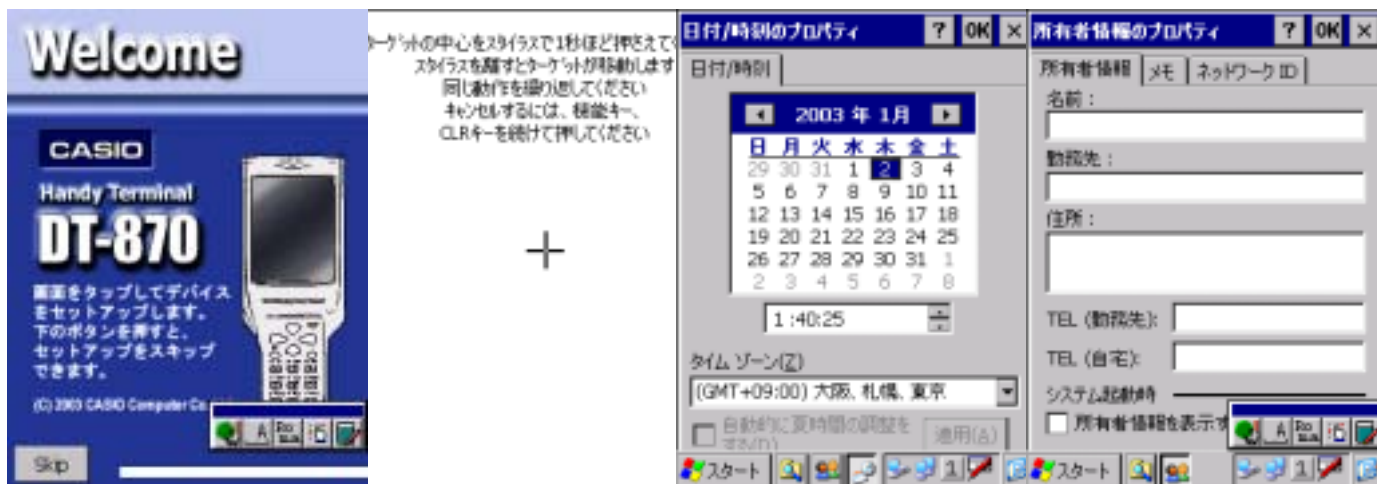
3-1-3.WELCOME ウィザード

Welcomeウィザードは、従来の PocketPC のWelcomeウィザードの機能に加え、ユーザ情報設定を行います。

ここで設定する内容は、以下のとおりです。

- ・タッチパネル調整
- ・オーナー情報入力
- ・日付時間設定

なお、設定をスキップすることが可能です。



3-1-4.バックアップツール

バックアップツールは、デバイス上の各種ユーザデータをメモリカードまたは、FlashDiskにバックアップ、リストアを行うツールです。不慮の事故によりユーザデータが破壊されたときなどに、バックアップデータを使ってユーザデータを復元(リストア)することが出来ます。

(1)バックアップ内容

- ・ファイル(データ、追加インストールしたプログラムなどです。デスクトップPCから転送したファイルなども含まれます。)
 - ・レジストリ(Windows CE の各種設定や、内蔵プログラムの設定情報などが含まれます。)
 - ・データベース(受信トレイ上のデータなどが含まれます。)
- データのバックアップ(およびバックアップデータからのリストア)には、データ量により数十秒から数分かかります。
 - セキュリティ確保のため、バックアップ開始時にパスワードを入力することができます。リストア時に正しいパスワードを入力しなければデータを復元できないようになります。
 - 外部電源の供給状態でバックアップを行うことを推奨します。
 - 本機では、最大2枚のストレージカードとFlashDiskがあるため、バックアップ/リストア位置が選択できます。

(2) バックアップの操作仕様

[スタート]-[プログラム]-[ユーティリティ] からバックアップツールを選択し、実行してください。

1.開いているダイアログ等がある場合は、すべて閉じてください。

また、十分バッテリー残量があることを確かめてください。

2.[スタート]-[プログラム]-[ユーティリティ] [バックアップツール]を選択してバックアップツールを起動してください。

3.リストボックスから保存場所を選択してください。アプリケーション起動後、CF カードを取り替える場合は、表示内容が変わったことを確認してから以降の操作を行ってください。

4.[バックアップ]のボタンをタップしてください。

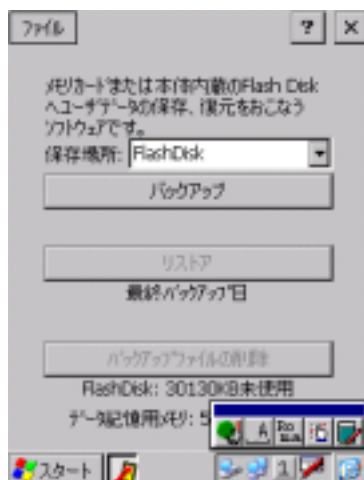
5.パスワードを入力する場合は 256 文字以内で入力してください。

ここで指定されたパスワードはバックアップイメージに埋めこまれ、リストアするときに必要となりますので、必ず控えを取っておくようにしてください。確認のためパスワードは 2 回入力してください。

6.[はい]ボタンをタップすると実行中のアイコンが表示され、バックアップが開始されます。

7.選択したフォルダの¥Backup¥backup.dat へバックアップします。

8.バックアップには数分かかりますが、その間キーボード入力やペンタップなどの一切の操作を行わないでください。



< 画面表示の内容 >

メモリーカード (FlashDisk): ***** 未使用

: 選択されているメモリーカード (FlashDisk) の空き容量

データ記憶用メモリ: ***** 使用中

: システムが利用しているメモリ容量

バックアップを行なえる目安として、メモリーカード (FlashDisk) > データ記憶用メモリとなっていればバックアップデータを保存する事ができます。

(3) リストアの操作仕様

1.あらかじめ FULL RESET を行い全てのデータを消去してください。

必要ならば、コントロールパネルにあるシステムを起動して、[メモリ]タブを選択して十分なデータ記憶用領域を確保してください。

2.バックアップデータが CF カードに格納されている場合は CF カードスロットに挿入してください。

3.[スタート]-[プログラム]-[ユーティリティ] [バックアップツール]を選択して、バックアップツールを起動してください。

4.[リストア]のボタンをタップしてください。

5.バックアップ時に指定したパスワードを入力してください。

6.実行中のアイコンが表示され、リストアが開始されます。

7. リストアには数分かかりますが、その間キーボード入力やペンタップなどの一切の操作を行わないでください。
8. 使用を開始する前に本体をリセットしてください。

リストアに失敗、または中断すると、システムが不安定になることがあります。必ず FULL RESET を行い、リストアしなおしてください。

(4)バックアップデータの削除

1. バックアップツールの起動画面で、[バックアップファイルの削除]のボタンをタップしてください。
2. [はい]をタップするとバックアップファイルが削除されます。

(5)エラー処理

手動バックアップ、自動バックアップ、リストア機能で下記の条件の場合、エラーとなりメッセージが表示されます。この場合、問題を解決して再度実行してください。

- ・ バッテリー状態が LOW であった。
- ・ CF カードが挿入されていなかった。
- ・ CF カード容量不足。
- ・ バックアップデータ無し (リストア時)。

(6)Help 処理

以下の操作により Help 画面を起動することができます。

- ・ [スタート]-[ヘルプ] をタップして起動してください。
- ・ 右上にある [×]ボタンを押すと、アプリケーションに戻ります。

(7)コマンドライン起動オプション

下記コマンドラインオプションにより、バックアップツールをユーザーアプリケーションから呼び出して利用することが可能です。

書式: CF_Backup.exe / * 1 / * 2 / * 3

* 1: R, B 大文字小文字どちらでも可 R: リストアー
B: バックアップ

* 2: バックアップファイル保存ディレクトリ

FlashDisk に保存する場合

CF_Backup.exe / B / FlashDisk

¥FlashDisk¥Backup¥Backup.dat を作成します

FlashDisk からリストアする場合

CF_Backup.exe / R / FlashDisk

¥FlashDisk¥Backup¥Backup.dat を利用してリストアします

メモリーカードからリストアする場合

CF_Backup.exe / R / メモリーカード

¥メモリーカード ¥ Backup.dat を利用してリストアします。

* 3: パスワード パスワードは、設定する場合のみです。入力しなくてもかまいません。

3-1-5.FLCE

FLCE は、本体間の他にシリアルケーブル接続または IOBOX 経由で PC のアップダウンユーティリティと通信を行うためのプログラムです。ファイル転送は、送り元および受け先それぞれのパスを指定して実行できます。

FLCE では、動作指定、送受信するファイル、格納先等、すべてパラメータとして引数で指定します。

(1)操作手順

FLCE は、実行プログラムで、以下の 2 通りの使用方法があります。

FLCE 単体使用

ユーザアプリケーションからチャイルドプロセスとして使用

単体使用時は、起動時にパラメータを入力するダイアログが表示されます。必要なパラメータをダイアログに入力し、OK を押します。ただし、アイドル起動モードで動作させる場合は、Cancel を押すか、何も入力しないで OK を押します。ユーザアプリケーションからファイル転送等を行いたいときは、FLCE をチャイルドプロセスとして引数付きで起動します。通信終了後、終了コードを、プロセスの戻り値として取得できます。

(2)入力パラメータ

動作パラメータ：通信コマンド、通信オプション、転送パス名、

使用 IO インタフェース、ボーレート、モード

レジストリ：以下の項目のデフォルト値を変更したい場合のみレジストリを設定

- 使用 IO インタフェース(IrDA or 232C)、ボーレート、ドライブレーターの対応

(3)出力パラメータ

Winmain の戻り値：終了コード

(4)通信機能の指定

FLCE への動作指定は、以下に示すコマンドを起動時のダイアログに入力するか、引数つきで FLCE を起動する事により行います。動作コマンドは複数記述することが出来ます(20 コマンド以下)。この場合、左側のコマンドから順に処理されます。あるコマンドでエラーが発生した場合は直ちにエラー終了し、そのコマンドより右側に記述したコマンドは処理されません。なお、通信環境設定コマンドが指定されなかった場合は、デフォルト値が使用されます。

コマンドの種類

種類	機能	コマンド	指定可能オプション	入力方法例
設定コマンド	通信環境設定	/ Y={デバイス,ポート,モード}	なし	/ Y={IrDA,115200,}
動作コマンド	ファイル送信	/ S	O, R	/ S O R
	ファイル受信	/ R	O, R	/ R O R
	ファイル送信(追加)	/ A	なし	/ A
	ファイル削除	/ D	O, R	/ D
	ファイル移動	/ N	なし	/ N
	時刻送信	/ T	なし	/ T
	アイドル起動	無し	スクリプトファイル名	

オプション概略

O(Over Write):リードオンリーファイルの強制上書き指定

- ・ このオプションが指定されると、リードオンリーファイルに対しても上書き処理を行います。
- ・ このオプションが指定されない場合、リードオンリーファイルに対して書込処理が発生すると異常終了します。
- ・ 上書き後のファイルの属性は送り元のファイルの属性になります。

R(再帰呼び出し):

- ・ 指定されたディレクトリ傘下の全てのファイルが処理の対象となります。指定ディレクトリ傘下にサブディレクトリが存在した場合はそのサブディレクトリも含めて処理が行われます。
- ・ ディレクトリの階層の深さは16までとします。
- ・ このオプションが指定されていない場合は、パス名で指定されたファイルだけが、処理の対象となります。

(5)コマンド、オプションの詳細

ここでは、起動パラメータの指定方法とその意味について記述してあります。

起動パラメータの合計は FLCE を含め 255 文字以下にして下さい。誤った記述や誤ったコマンド、コマンドに対して設定できないオプション等、誤ったパラメータが一個所でもあった場合は、通信を開始せず直ちにエラー終了します。

パラメータ記述の規則

1. 各パラメータ間は全て半角スペースで区切る
2. / Y コマンドは先頭に一回だけ記述できる(省略可)
3. 動作コマンドは、必要パラメータの後に、続けて20個まで指定できる
4. コマンドおよびオプションは大文字小文字どちらも使用可能
5. オプションの指定順は任意
6. オプションはコマンドに続きスペースを空けずに記述する
7. オプションを複数指定する場合はスペースを空けずに記述する

以降の説明において、[] で囲まれたパラメータの指定は任意に指定でき、その他のパラメータは必ず指定して下さい。

通信環境設定

(指定方法)

/Y=([デバイス],[ボーレート],[モード])

(機能説明)

- ・ 通信に使用するデバイス、ボーレートと通信モードを指定します。
- ・ このコマンドが省略された場合はデフォルト値 {IrDA} が用いられます。
- ・ 各パラメータは省略可です。省略したパラメータはデフォルト値が用いられます。
- ・ 必ず、FLCE の直後に記述して下さい。それ以外の場所での指定はパラメータエラーとなります。

(パラメータの説明)

1) コマンド

/Y=([デバイス],[ボーレート],[モード])

2) デバイス

- ・ 「IrDA」または「COM1」のどちらかを選択

3) ボーレート

- ・ 「IrDA」選択時 - 指定できません
- ・ 「COM1」選択時 - 232C の通信ボーレートとして以下が選択可
「9600」「19200」「38400」「57600」「115200」

上記以外の組み合わせで以外は指定できません。パラメータエラーとなります。

4) モード

- ・ 「H」 - HT 対向コマンド指定モード
このオプションは、HT 同士で通信する場合に動作コマンドを指定する側で必ず指定します(相手HTのFLCEは、アイドル起動で実行すること)。
- ・ 「I」 - 接続待ちタイムアウトが無限大になります。
- ・ 何も指定しない場合およびH指定時は、接続待ちタイムアウトが1分となります。
- ・ 「H」か「I」のいずれかのみ指定できます。

起動	通信相手	接続待ちタイムアウト	
		1分	無限
アイドル(スクリプトを含む)	PC (IO BOX)		
	HT	モード指定なし	モード指定 I
動作コマンド指定	PC (IO BOX)		
	HT	モード指定 H	(指定不可)

ファイル送信

(指定方法)

/S[Option] 送信ファイルパス名 [送信ファイルパス名] [...] 格納先ディレクトリパス名

(機能説明)

- ・ 自機マシン側に存在するファイルを、通信相手に転送する機能です。
- ・ 通信相手先の、格納先ディレクトリ内にすでに同名のファイルが存在した場合は上書きを行います。
- ・ 格納先ディレクトリ名で指定したディレクトリが存在しない場合は自動的にディレクトリが作成されます。
- ・ 送信ファイルパス名は最初にチェックされ、自機マシン内に存在しない送信ファイルパス名が1つでも指定されていたら、FLCE は直ちにエラー終了します。(この場合、存在するファイルも送信処理は行われません)
- ・ 進捗率の表示処理を行います。

(パラメータの説明)

1) コマンド

/ S (Sending) : ファイルの送信処理

2) オプション

O(Over Write): リードオンリーファイルの強制上書き指定

- ・ このオプションが指定されると、リードオンリーファイルに対しても上書き処理を行います。
- ・ このオプションが指定されない場合、リードオンリーファイルに対して書き込み処理が発生すると異常終了します。

R(再帰呼び出し):

- ・ 送信ファイルパス名で指定されたディレクトリ傘下の全てのファイルが転送ファイルの対象となります。指定ディレクトリ傘下にサブディレクトリが存在した場合はそのサブディレクトリ名も付加し、ファイルの送信処理を行います。

- ・ ディレクトリの階層の深さは16までとします。
 - ・ このオプションが指定された場合でも、送信ファイルパス名はフルパス名で指定すること。
 - ・ このオプションが指定されていない場合は、送信ファイルパス名で指定されたファイルだけが、転送ファイルの対象となります。
- 3) 送信ファイルパス名
- ・ 自機側に存在するファイルを、フルパス名で指定すること。
 - ・ 全ファイルを指定する場合は、ファイル名として「*.*」を入力すること。
 - ・ ファイル名にワイルドカードの指定も可能。
 - ・ 全角文字のディレクトリ名、ファイル名の指定も可能。
- 4) 格納先ディレクトリパス名
- ・ このコマンドに対しての最終入力パラメータに、通信相手先の格納先ディレクトリ名を記述します。
 - ・ 指定したディレクトリが存在しない場合は、指定した名前前でディレクトリが作成されます。
 - ・ ディレクトリ名の終結文字として、「¥」または「\」を入力して下さい。入力しない場合は、パラメータエラーとなります。
 - ・ 全角文字のディレクトリ名の指定も可能です。
 - ・ 格納先ディレクトリパス名は、通信相手側の OS の命名規則に従って下さい。

ファイル受信

(指定方法)

/R[Option] 要求ファイルパス名 [要求ファイルパス名] [...] 受信ディレクトリパス名

(機能説明)

- ・ 通信相手側に存在するファイルを要求パス名で指定し、ファイルを受信する機能です。
- ・ 自機マシン側の、受信ディレクトリ内にすでに同名のファイルが存在した場合は上書きを行います。
- ・ 受信ディレクトリで指定したディレクトリが存在しない場合は、自動的にディレクトリが作成されます。
- ・ 通信相手側に依存する動作は 2.3 を参照して下さい。
- ・ 進捗率の表示処理を行います。

(パラメータの説明)

- 1) コマンド
 - / R(Receive) :ファイル受信要求処理
- 2) オプション
 - O(Over Write):リードオンリーファイルの強制上書き指定
 - ・ このオプションが指定されると、リードオンリーファイルに対しても上書き処理を行います。
 - ・ このオプションが指定されない場合、リードオンリーファイルに対して書き込み処理が発生すると異常終了します。
 - R(再帰呼び出し):
 - ・ 要求ファイルパス名で指定されたディレクトリ傘下の全てのファイルが転送ファイルの対象となります。指定ディレクトリ傘下にサブディレクトリが存在した場合はそのサブディレクトリを付加してファイルの受信処理を行います。
 - ・ このオプションが指定されていない場合は、要求ファイルパス名で指定されたファイルだけが、転送ファイルの対象となります。
 - ・ このオプションが指定された場合でも、要求ファイルパス名にはフルパス名で指定すること。
- 3) 要求ファイルパス名
 - ・ 通信相手側に存在するファイルで、受信したいファイルをフルパス名で指定します。
 - ・ ファイル名にワイルドカードの指定も可能。
 - ・ 全ファイルを指定する場合は、ファイル名として「*.*」を入力すること。
 - ・ 全角文字のディレクトリ名、ファイル名の指定も可能。
 - ・ 要求ファイルパス名は、通信相手側の OS の命名規則に従って下さい。
- 4) 受信ディレクトリパス名
 - ・ このコマンドに対しての最終入力パラメータを、受信ディレクトリ名として指定します。
 - ・ 受信ディレクトリは、受信したファイルを格納する格納ディレクトリ名を指定します。
 - ・ 指定したディレクトリが存在しない場合は、指定した名前前でディレクトリが作成されます。
 - ・ ディレクトリ名の終結文字として、「¥」または「\」を入力します。入力しない場合は、パラメータエラーとなります。
 - ・ 全角文字のディレクトリ名の指定も可能。

ファイル送信(追加)

(指定方法)

/A 追加ファイルパス名 ターゲットファイルパス名

(機能説明)

- ・自機マシン側に存在する追加ファイルパス名で指定されたファイルの内容を、通信相手に送信し、通信相手上に存在するファイルに追加する機能です。
- ・通信相手先にターゲットファイルパス名で指定したファイルが存在しない場合は、自動的にファイルが作成されます。
- ・ターゲットファイルの日付時刻は、追加処理を行ったときのターゲットファイルの存在するマシンのシステム日付時刻となります。
- ・ファイル送信途中で失敗した場合、ターゲットファイルは通信開始前の状態が維持されます。
- ・ファイルはバイナリで追加処理します。(EOF コードがあっても、その後から追加される)
- ・進捗率の表示処理を行います。

(パラメータの説明)

- 1) コマンド
 - ・ / A(Append) : ファイルの追加要求処理
- 2) 追加ファイルパス名
 - ・ 自機側に存在するファイルで送信したいファイルを、フルパス名で指定すること。
 - ・ ファイル名にワイルドカードの指定は不可とします。
 - ・ 全角文字のディレクトリ名、ファイル名の指定も可能。
- 3) ターゲットファイルパス名
 - ・ 通信相手側に存在するファイルで、追加されるファイルをフルパス名で指定します。
 - ・ 指定したファイルが存在しない場合は、指定したファイル名でファイルが作成されます。
 - ・ ファイル名にワイルドカードの指定は不可とします。
 - ・ 全角文字のディレクトリ名、ファイル名の指定も可能。
 - ・ ターゲットファイルパス名は、通信相手側の OS の命名規則に従って下さい。

ファイル削除**(指定方法)**

/ D[Option] 削除パス名 [削除パス名] [...]

(機能説明)

- ・通信相手側に存在するファイルまたはディレクトリを指定する事により、そのファイルまたはディレクトリを削除します。
- ・通信相手側に依存する動作は 2.3 を参照して下さい。
- ・進捗率の表示処理は行いません。

(パラメータの説明)

- 1) コマンド
 - ・ / D ... 削除パス名で指定されている対象ファイルまたはディレクトリを削除
- 2) オプション
 - ・ O(Over Write):リードオンリーファイルの強制削除指定
 - ・ このオプションが指定されると、リードオンリーファイルに対しても削除を行います。
 - ・ このオプションが指定されない場合、リードオンリーファイルに対して削除処理が発生すると異常終了します。
 - ・ R(再帰呼び出し):
 - ・ 削除パス名で指定されたディレクトリおよびその傘下の全てのファイルおよびディレクトリが削除の対象となります。
 - ・ 指定ディレクトリ傘下にサブディレクトリが存在した場合はそのサブディレクトリも含めて削除を行います。
 - ・ ディレクトリの階層の深さは16までとします。
 - ・ このオプションを指定した場合、削除パス名はディレクトリ名をフルパスで指定して下さい。
 - ・ このオプションが指定されていない場合は、削除パス名で指定されたファイルだけが、削除の対象となります。
- 3) 削除パス名
 - ・ R オプションなしの場合
 - 通信相手側に存在するファイルで、削除したいものをフルパス名で指定します。
 - ・ ファイル名にワイルドカードの指定も可能です。
 - 全ファイルを指定する場合は、ファイル名として「*.*」を指定して下さい。
 - ・ R オプションありの場合
 - 通信相手側に存在するディレクトリで、削除したいものをフルパス名で指定します。
 - ディレクトリ名は、終結文字として、「¥」を入力して下さい。
 - ・ 全角文字のディレクトリ名、ファイル名の指定も可能。
 - ・ 要求ファイルパス名は、通信相手側の OS の命名規則に従って下さい。

ファイル移動または、ファイル名の変更**(指定方法)**

/ N 移動元パス名 移動先パス名

(機能説明)

- ・ 通信相手側に存在する指定ファイル(移動元パス名)を、移動先パス名に移動します。
- ・ 移動先パス名がディレクトリ名の場合は移動元パス名のファイル名がそのまま用いられ、移動先パス名がファイル名の場合は、そのファイル名に変更されます。
- ・ 通信相手側に依存する動作は 2.3 を参照して下さい。
- ・ 進捗率の表示処理は行いません。

(パラメータの説明)

1) コマンド

/N ... 移動元パス名で指定した対象ファイルを、移動先パス名に移動

2) 移動元パス名

- ・ 通信相手側に存在するファイルで、移動したいファイルをフルパス名で指定します。
- ・ ファイル名にワイルドカードの指定は不可とします。
- ・ 全角文字のディレクトリ名、ファイル名の指定も可能。
- ・ 移動元パス名は、通信相手側の OS の命名規則に従って下さい。

3) 移動先パス名

- ・ 通信相手側の移動先をフルパス名で指定します。
- ・ 移動先にすでに同名ファイルがあった場合はエラーが返されます。
- ・ ディレクトリを指定するときは、終結文字として、「¥」を入力して下さい。
- ・ ファイル名が指定された場合は、指定されたファイル名に変更します。
- ・ 指定したパスのディレクトリが存在しない場合は、指定したパス名でディレクトリが作成されます。
- ・ ファイル名にワイルドカードの指定は不可とします。
- ・ 全角文字のディレクトリ名、ファイル名の指定も可能。
- ・ 移動先パス名は、通信相手側の OS の命名規則に従って下さい。

時刻送信**(指定方法)**

/T

(機能説明)

- ・ 自機のシステム日付時刻を送信し、通信相手側システムの日付時刻を設定出来る機能です。
- ・ 送信される日付時刻はローカルタイムです。
- ・ 通信回線の状態によっては数秒の誤差が出ることがあります。
- ・ HT 対向時のみ有効です。

アイドル起動**(起動方法) /Y 以外のコマンドを指定することは出来ません)**

FLCE [/Y={[デバイス],[ポーレート],[モード]}] [スクリプトファイル名]

(機能説明)

- ・ 要求権を通信相手側に与え、相手から要求された機能に従って動作するモードです。
- ・ このモードで起動するときは/Y 以外のコマンドを指定できません。(指定すると、アイドル起動モードでなく通常動作モードになるか、スクリプトファイル名が指定された場合はパラメータエラーとなりエラー終了します)
- ・ /Y 指定時、モードパラメータにHを指定しないで下さい。(パラメータエラーになりエラー終了します)
- ・ この機能は、異常終了時以外は終了指示を受信すると終了します。
- ・ スクリプトファイル名が指定された場合は、通信相手に存在するスクリプトファイル名の内容で通信が実行されます。
- ・ スクリプトファイルの指定は PC と通信する場合のみ有効です。
- ・ 通信相手に存在しないスクリプトファイル名が指定された場合、エラーが返されます。
(HT 対向の場合は、スクリプトファイルは処理されないため無視されます。)

(パラメータの説明)

- 1) スクリプトファイル名 ... 通信相手側に存在するスクリプトファイル名を指定。
スクリプトファイル名は必ず " " で囲んで下さい。

(6)パス名の記述方法

パス名は必ず " " で囲んで下さい。また、1つのパス名は " " を含んで 255 文字以下にして下さい。

全角文字も 1 文字に数えます。

パス名の記述は、指定したいパスが存在するマシンの OS のパスの命名規則に従って下さい。

パスを表現する場合、ドライブレターについて以下に従った記述をして下さい。

1. HT 上のパス名はドライブレターを用いず、ルートディレクトリから記述して下さい(ホスト PC 用アップダウンユーティリティから HT 上のファイルまたはディレクトリのパスを指定する場合も同様です)
2. もし通信相手からドライブレター付きで指定されても、HT の FLCE 側でドライブレターは無視されます(ルートディレクトリからドライブレターなしで指定されたものと同等に扱われます)

3. HT からドライブレターに必要な OS の動作している通信相手 (PC 等) 上のファイルまたはディレクトリのパスを表現する場合は、従来どおり必ずドライブレターをつけて記述して下さい

ただし、上記 2. にかかわらず例外として、通信相手から Windows CE 機上のデバイスを指定して、フォーマット、ディスク情報取得指示を行う場合、ドライブレターに以下の意味を持たせます。ただし、これらの設定はレジストリに記述することで変更可能です。

デフォルト設定 内部 RAM C: (PC/AT 機の仕様に合わせ、起動ドライブを C: とした)
FlashDisk D:

(7)存在しないファイルを指定したとき

通信相手側に存在しないファイルまたはディレクトリのパス名を指定した場合は、以下の処理が行われます。

通信相手	受信	削除	移動	送信、送信(追加)
Windows95/Windows NT				
DOS	A	C	B	D
Windows CE	A	C	B	D

- A: 複数指定したパス名のうち 1 つでも存在しなければ、異常終了します
(存在するファイルも転送処理は行われません)
B: 指定したパス名が存在しなければ、異常終了します (転送処理は行われません)
C: 指定したパス名の中に存在しないパス名があった場合、そのパス名は無視されます
(その他の存在するパス名は全て処理されます)
D: 新たにファイルが作成されます

(8)機能と表示

項番	機能(プロトコル上のコマンド)	表示種類		備考
		FLCE から指 定	通信相手か ら要求	
1	ファイル送信	C	C	
2	ファイル受信	C	C	
3	ファイル追加	C	C	
4	ファイルまたは、ディレクトリの削除	A	B	
5	ファイルの移動または、ファイル名の変更	A	B	
6	ディレクトリ作成	-	B	
7	時刻設定	A	A	
8	時刻要求	-	A	
9	メッセージの表示	-	D	
10	ブザー鳴動	-	A	
11	ファイル情報の取得	-	A	
12	ファイル情報の設定	-	A	
13	ディスク情報の取得	-	A	
14	セッション ID およびシステム情報の取得			プロトコル内部のコマンドなので表示不要
15	IDLE 通知			
16	終了指示			

- ステータス表示:
- A 現在実行しているコマンド、または要求を出したコマンドを表示
 - B A に加え、自機内で処理中のファイルまたはディレクトリを表示
 - C A に加え、転送中のファイルおよび進捗を表示
 - D 相手から送られたテキストメッセージを表示

(9)レジストリの設定

レジストリに値を書き込むことにより、通信環境等のデフォルト値を変更することが出来ます。

通常使用時の、回線指定やボーレート指定は設定コマンド(/Y)で行い、デフォルト値を変更したいときのみレジストリ設定を行います。また、ドライブレターの意味付けを変更したいときには、ドライブレター名のキーを作成し、そこに意味付けを行いたいデバイスのパス名を記述します。レジストリは一度設定を行うと、次に設定を変更するか、コールドブートされるまで有効です。レジストリに設定をしなかった項目(キー)または設定が誤っていた項目(キー)は、おおもとのデフォルト値が有効になります。

設定項目

- ・232C ボーレート - レジストリに設定が無かった場合のデフォルト 19200bps
- ・通信回線指定 (COM1 or IRDA) - レジストリに設定が無かった場合のデフォルト IrDA
- ・ドライブレターの意味付け対応 - レジストリに設定が無かった場合のデフォルト

C ¥ (内部 RAM のオブジェクトストア)

D ¥FlashDisk¥(NAND FLASH)

- ・レジストリ位置 ¥HKEY_CURRENT_USER¥Software¥CASIO¥FLCE¥

内容

キー名	型	値
BAUD	DWORD	ボーレート
DEVNM	STRING	通信回線 (IO デバイス)
DRIVE¥A	STRING	aドライブとして意味付けるデバイスのパス
DRIVE¥B	STRING	bドライブとして意味付けるデバイスのパス
DRIVE¥C	STRING	cドライブとして意味付けるデバイスのパス
...		
DRIVE¥Z	STRING	zドライブとして意味付けるデバイスのパス

(10)終了コード

FLCE は、通信終了時に終了コードとして5.2記載のコードを返します。上位側プログラムはこの値を参照し、適当な動作を行ってください。終了コードは、Winmain の戻り値として返します。上位プログラムでは、GetExitCodeProcess()を用いて、戻り値を参照して下さい。

終了コード表

下記のカテゴリーコード(上位バイト)はエラーの区分を示し、エラー詳細コード(下位バイト)はエラーの詳細を示します。

Error Code		Meaning	原因	対処方法
Category Code	Detail Code			
00H	00H	正常終了	正常	-
DCH ~ F5H	00H	正常終了	相手局から 'A' ~ 'Z' ドライブのフォーマットを指示された(ドライブレターの意味付けは2.2参照)	1.5参照
F6H	00H	正常終了	相手局から電源 OFF を指示された	電源を OFF して下さい
F7H	00H	正常終了	相手局からリセットを指示された	1.5参照
F8H	00H	中断終了	自局または相手局の中断キーが押された事により通信が終了した	必要に応じて再実行して下さい
01H	00H	プロトコルエラー	データ異常(通信回線上でデータにエラーが発生した)	通信経路の接続を確認して下さい
02H	80H	ファイルが見つからない	存在しないファイルを指定した	指定するファイルまたはディレクトリを確認して下さい
02H	81H	カレントディレクトリ削除エラー	カレントディレクトリを削除しようとした	削除ディレクトリを確認して下さい
02H	82H	ファイルライトエラー	何らかの事情でファイルへの書き込みができない	ファイルが書き込める状態にあるか確認して下さい
02H	83H	ファイルリードエラー	何らかの事情でファイルからの読み出しができない	ファイルが読み込める状態にあるか確認して下さい
02H	84H	リードオンリーアクセスエラー	リードオンリーファイルに上書きまたはリードオンリーファイルを削除しようとした	違うファイル名を指定するか、リードオンリー属性を解除して下さい
0FH	01H	パラメータエラー	パラメータの記述方法が誤っている	パラメータをチェックして下さい
0FH	02H	パラメータが長すぎる	パラメータが長すぎる	パラメータを 255 文字以内にして下さい
A0H	10H	通信ポートオープンエラー	他のプログラムが COM1 または IrDA を使用しているか、FLCE が既に起動されている	他の COM1 または IrDA を使用しているプログラムを終了して下さい
A0H	20H	回線断エラー	通信中にケーブルが抜けたか、IrDA コネクションが切断された(IOBOX から HT が取り外された等)	ケーブル接続および HT の IOBOX への装着が正しく行われているか確認して下さい
A0H	30H	接続待ちタイムアウトエラー	起動後 1 分間以内に接続完了しなかった	ケーブルの接続を確認するか、IrDA が通信可能状態にあるか確認して下さい

(11)ログファイル

FLCEは、ログファイルを作成し、通信ログを残します。

1)ログファイル名

ログファイル名は、"FLCE.LOG"で固定とします。

変更はできませんので、ログファイルを残したい場合は、ファイル名の変更等に対応します。

2)作成場所

"¥Windows¥" ディレクトリに作成します。

3)作成方法

既にログファイルが存在していても、新規で作成します。

既存ファイルへ、追加でのロギングは行いません。

ファイル作成が出来ない場合は、ログファイルを作成しません。

コマンドパラメータに、誤りがある場合はログファイルは作成しません。

ログファイルの作成は、通信相手と接続処理が開始された時点から行われます。

4)フォーマット

1行目: FLCE.EXE のバージョン情報を出力します。

2行目: プロトコルのバージョン(1バイト)情報を出力します。

最初のバージョンは、'1'です。

3行目: 通信相手機種(最大3バイト)コードを出力します。

AT ... IBM - PC AT 互換機

4行目: セッション ID 情報を出力します。

16進数で出力されます。(例) 0x0000)

5行目: 最終イベント情報を出力します。

6行目: 最終フェーズ情報を出力します。

7行目: 終了ステータス情報を出力します。

16進数で出力されます。(例) 0x0000)

8行目: 最終送信ファイル名を出力します。

9行目: 最終受信ファイル名を出力します。

以上の9行で出力されます。

2～4行目は、通信相手から取得した情報を出力しますので

HT 対向通信時の、疑似 PC モードで動作している HT 側の

ログファイルには、この行は空白の状態です。

また、1行80バイト未満で出力していますので、8、9行目の

ファイル名が65(15バイト分は項目名で使用)バイト以上である場合は、

65バイト目以降の文字列は削除されて出力されます。

(12)Help処理

Today 画面またはアプリケーション実行中にスタートメニュー > ヘルプを選択すると、ヘルプファイルが表示されます。

3-1-6.コントラスト/バックライトユーティリティ

コントラストの調整と輝度(バックライト)の調整及び自動減光/オフの設定が可能です。

(1)コントラスト

コントラストタブをタップして、コントラストを9段階で設定します。(デフォルトは5)

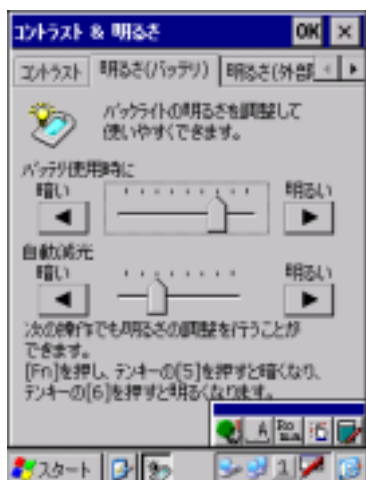


(2)バックライトの明るさ

明るさ(バッテリー)タブを選択して、バッテリー駆動時の明るさを9段階で設定します。(デフォルト:7)

明るさ(バッテリー)タブを選択して、バッテリー駆動時の自動減光時の明るさを8段階で設定します。(デフォルト:3)

明るさ(外部電源)タブを選択して、外部電源駆動時の明るさを9段階で設定します。(デフォルトは9)



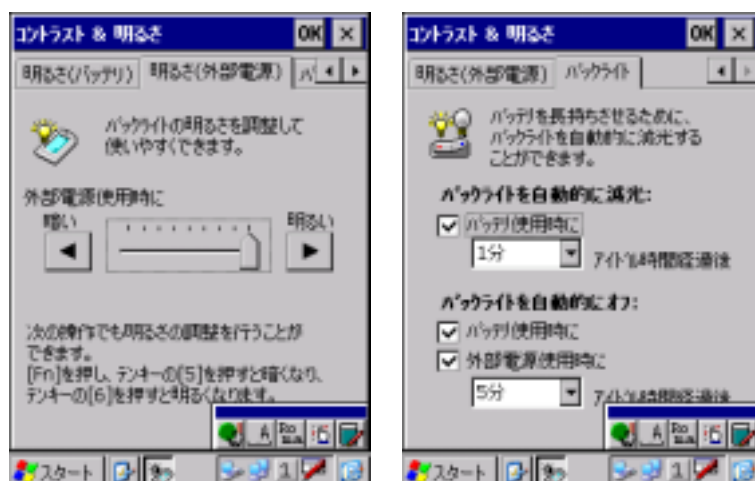
(3) バックライトの自動減光 / バックライトオフ

電源オンした状態で、キーやタッチパネルの入力を一切行わないで放置したときに、節電のためにバックライトを自動的に減光またはオフします。

バックライトタブを選択して、バッテリー駆動時に自動減光をする / しないの選択と、“する”を選択した場合の自動減光までの時間を設定します。(デフォルト: 1分)

バックライトタブを選択して、外部電源駆動時またはバッテリー駆動時にバックライトオフをする / しないの選択と、“する”を選択した場合のバックライトオフまでの時間を設定します。(デフォルト: 5分)

自動減光とバックライトオフの両方が設定されていた場合は、設定時間の短い方が有効となります。



3-1-7. 自動セットアップ

デバイスがリセットされたとき、所定ディレクトリにある Setup.exe または AutoRun.exe を自動実行します。

デバイスがリセットされたとき、Flash インストーラは FlashDisk の所定ディレクトリにある Setup.exe を自動実行します。このユーティリティは FlashDisk に入れたパッチやアプリケーションをインストール可能にするためにあらたに追加された機能です。(所定ディレクトリ: ¥FlashDisk¥CE¥ARM)

Flash インストーラは、リセット直後から、レジストりに登録されたセットアップファイルを FlashDisk 内から順次検索を行います、該当するファイルが検出された場合にこのプログラムを実行します。

```
[HKEY_LOCAL_MACHINE¥Drivers¥CASIO¥UTIL¥FLSETUP]
```

```
"1"= "¥CE¥ARM¥Setup.exe"
```

もしユーザプログラムで使用したい場合は、例として以下のようにレジストリを追加すれば順次実行します。(最大3個)

```
"2"= "¥CE¥ARM¥UserAppSetup.exe"
```

これらのユーティリティは上記のキーを消去することによって無効にできます。

セットアッププログラム、自動実行プログラムについて

- リセットのたびごとに、このユーティリティは Setup.exe の起動を行いますので、Setup.exe は重複してセットアップを行わないようにしてください。

< AutoRun.exe >

AutoRun.exe は、メモリーカードが挿入された際に、メモリーカード内の所定ディレクトリにある AutoRun.exe を自動検出し、検出された場合には実行します。(所定ディレクトリ: ¥メモリーカード¥CE¥ARM)

設定方法等については、上記の Setup.exe と同様です。

3-1-8.FCHKCE

ファイルチェックユーティリティです。PC等からコピーしたファイルがターゲットの端末上に正常にインストールされたかをチェックします。ファイルチェックユーティリティは、以下の機能を有します。

リストファイル作成: Pocket PC から転送するファイル名を指定し、転送するファイル名のリストおよび、転送する全ファイルによるチェックサムを算出したチェックサムデータでリストファイルを作成します。

さらに、リストファイルのチェックサムデータも作成します。

リストファイル照合: 相手局より転送されたファイルのファイル情報とリストファイル(FCHK.LOG)の内容の比較照合、リストファイルのチェックサムデータの算出と比較照合および、転送された全ファイルのチェックサムデータを算出し、リストファイルのチェックサムデータとの比較照合を行います。

(1) 機能

リストファイルの作成機能

- ・H/PC から転送(コピー)するファイル名を指定し、転送(コピー)するファイル名のリストおよび、転送(コピー)する全ファイルによるチェックサムを算出したチェックサムデータでリストファイルを作成します。さらに、リストファイルのチェックサムデータも作成します。
- ・本機能で作成されるリストファイル名は FCHK.LOG 固定とします。
- ・プログラム終了コードとして、正常にリストファイルが作成された場合は戻り値が 0 となり、異常の場合の戻り値は 0 以外で終了します。またこの時履歴ファイルを作成します。([FCHK.LOG File output Directory name] に FCHKG.HIS を作成します)
- ・履歴ファイルは、リストファイルを作成するにあたっての動作をファイルに残します。なお、ユーザはファイル転送(ファイルコピー)の際、本機能で作成したリストファイルを相手局(子機側)へ転送(コピー)しなければなりません。
- ・リストファイルに設定する情報は、下記の通りとします。

ファイルサイズ

更新日付および時

刻転送(コピー)先パス(ファイル)名

転送(コピー)ファイル数

転送(コピー)全ファイルのチェックサムデータ

リストファイルのチェックサムデータ

- ・転送(コピー)全ファイルのチェックサムデータは、転送(コピー)する全ファイルのデータ部をダブルワードで排他的論理和をとったものを使用します。また、リストファイルのチェックサムデータは、リストファイルの内容をダブルワードで加

算し、その結果が 0 となる値をチェックサムデータとして使用します。

- ・チェックサムデータは以下のように、リストファイルに出力されます。

FILE_CHECKSUM=HHHHLLLL(HHHH: HIGH-WORD / LLLL: LOW-WORD)

LIST_CHECKSUM=HHHHLLLL(HHHH: HIGH-WORD / LLLL: LOW-WORD)

本機能でエラーが発生した場合の既存リストファイル(LOG ファイル)については、リストファイル作成中にエラーが発生した場合は削除されます。コマンドパラメータ解析中のエラーについては既存リストファイルを削除しません。

リストファイルの照合

- ・相手局(親機側)より転送(コピー)されたファイルのファイル情報とリストファイル (FCHK.LOG)の内容の比較照合、リストファイルのチェックサムデータの算出と比較照合および、転送(コピー)された全ファイルのチェックサムデータを算出し、リストファイルのチェックサムデータとの比較照合を行います。
- ・プログラム終了コードとして、照合結果が正しい場合は戻り値が 0 となり、異常の場合の戻り値は 0 以外で終了します。またこの時履歴ファイルを作成します。(<FCHK.LOG file pass name> に FCHKC.HIS を作成します) 履歴ファイルは、コピーされたファイルとリストファイルを比較するにあたっての動作をファイルに残します。
- ・比較照合するファイル情報は、下記の通りとします。

ファイルサイズ

更新日付および時刻

転送(コピー)先パス(ファイル)名

転送(コピー)ファイル数

転送(コピー)全ファイルのチェックサムデータ

リストファイルのチェックサムデータ

- ・転送(コピー)全ファイルのチェックサムデータは、転送(コピー)する全ファイルのデータ部をダブルワードで排他的論理和をとったものを使用します。また、リストファイルのチェックサムデータは、リストファイルの内容をダブルワードで算し、その結果が 0 となる値をチェックサムデータとして使用します。

(2)ファンクション詳細

FCHKCE /G

H/PC から転送(コピー)するファイル名を指定し、転送(コピー)するファイル名のリストおよび、転送(コピー)する全ファイルによるチェックサムを算出したチェックサムデータでリストファイルを作成します。さらに、リストファイルのチェックサムデータも作成します。

ロギング対象ファイルの最大数は、65000 ファイルです。

スクリプトファイルの最大ファイルサイズは、32000 バイトです

書式 FCHKCE /G [</Option>] <file name list or Script file name> <Destination directory name>
 [<FCHK.LOG File output Directory name>]

([]内のパラメータは省略可能です)

パラメータ

Option /SC:スクリプトファイル名の指定

- ・パラメータで指定されたファイル名が、スクリプトファイルであり、FCHKCE.EXE がスクリプトファイルより、転送するファイル名の解析を行い、リストファイルを作成します。

/R:再帰呼び出し指定

- ・パラメータで指定されたファイルパス名のディレクトリ傘下の全ファイルがリストファイル作成の対象となります。指定ディレクトリ傘下にサブディレクトリがある場合には、そのサブディレクトリ名も付加してリストファイルを作成します。
- ・ディレクトリの階層の深さは16までとします。
- ・本オプションが指定されていない場合には、ファイル名リストで指定されたファイルだけが、リストファイル作成の対象となります。

/AO:追加出力

- ・[FCHK.LOG File output Directory name] で指定したディレクトリに FCHK.LOG ファイルが存在する場合は、追加でロギングファイルを作成します。
- ・存在しない場合は、新規に FCHK.LOG ファイルを作成します。(但し、指定ディレクトリが存在しない場合は、異常終了します)
- ・追加出力は、単純にリストファイルの終わりにリストファイルを追加します。既存リストファイルの内容の1部分を変える場合には、追加出力をせずに再度リストファイルを作成して下さい。

<File name list or Script file name >

- ・転送(コピー)するファイル名のリストを記述します。送信元(コピー元)に存在するファイル名を指定して下さい。なお、転送元(コピー元)ファイル名を複数指定する場合には、パス名とパス名とを' '(半角スペース)で区切り、継続して下さい。
- ・ファイル名にはワイルドカードの指定が可能です。
- ・オプションで /SC を指定した場合は、スクリプトファイルの存在するパス名を指定して下さい。

<Destination directory name>

- ・送信先(コピー先)のディレクトリ名を指定します。
- ・ディレクトリ名は送信先(コピー先)のOSの命名規則に従って下さい。
- ・ディレクトリ名の終結文字は、¥とします。

[FCHK.LOG File output Directory name]

- ・FCHK.LOG ファイル出力先ディレクトリ名を指定します。
- ・ディレクトリ名は自機OSの命名規則に従って下さい。
- ・ディレクトリ名の終結文字は、¥とします。
- ・本パラメータを省略した場合は、カレントディレクトリに FCHK.LOG ファイルを作成します。

戻り値

リターンコード (4)参照

FCHKCE /C

相手局(親機側)より転送(コピー)されたファイルのファイル情報とリストファイル(FCHK.LOG)の内容の比較照合、リストファイルのチェックサムデータの算出と比較照合および、転送(コピー)された全ファイルのチェックサムデータを算出し、リストファイルのチェックサムデータとの比較照合を行います。

最大照合ファイル数を、65000 とします。

書式 FCHKCE /C [</Option>] <FCHK.LOG file pass name>

([]内のパラメータは省略可能です)

パラメータ

Option /D:更新日付の照合を行いません。

- ・H / PC エクスプローラでファイル転送を行った場合に、更新日付がH / PC の現在時刻に変更されてしまう為に、更新日付を照合しないオプションです。(ただしFLICE / PC カードによるコピーでは、更新日付は変更されません)

<FCHK.LOG file pass name>

- ・リストファイル(FCHK.LOG)が存在するパス名を OS の命名規則にて指定します。

戻り値 リターンコード (4) 参照

(3)制限事項

Windows CE の仕様上、¥Windows¥フォルダ内のファイルには、コピーできないファイルがあるため、リストファイルに書き込まれないファイルがあります。

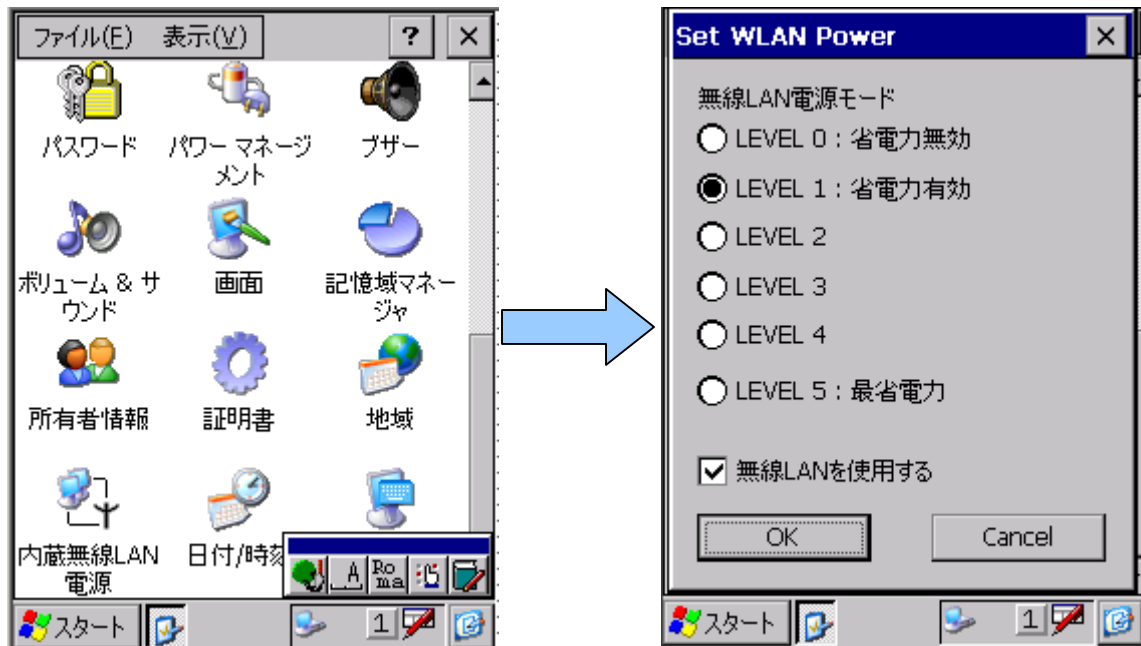
(4) エラーメッセージ/コード

コード	メッセージ	意味	対処方法
00	リストファイルの作成が完了しました。 リストファイルの内容は一致しました。	正常終了しました。	問題ありません。
01	指定されたパス名が見つかりません。	リストファイル作成で指定したファイル名が存在しません。	存在するパス名ファイル名を指定して下さい。
02	リストファイル作成エラー。	リストファイル作成中に、物理的エラーが発生しました。	再度プログラムを実行してみてください。
03	FCHK.LOGが見つかりません。	リストファイルチェックで、リストファイル(FCHK.LOG)が見つかりません。	リストファイルのあるディレクトリを指定して下さい。
04	リストファイルの内容は一致しませんでした。(パス名が不一致)	リストファイルチェックの照合の結果が一致しません。(パス名が不一致)	もう一度最初からファイルチェックユーティリティを実行して下さい。
05	リストファイルの内容は一致しませんでした。(サイズが不一致)	リストファイルチェックの照合の結果が一致しません。(サイズが不一致)	もう一度最初からファイルチェックユーティリティを実行して下さい。
06	リストファイルの内容は一致しませんでした。(日付/時刻が不一致)	リストファイルチェックの照合の結果が一致しません。(日付/時刻が不一致)	もう一度最初からファイルチェックユーティリティを実行して下さい。
07	リストファイルの内容は一致しませんでした。(全ファイルチェックサムが不一致)	リストファイルチェックの照合の結果が一致しません。(全ファイルチェックサムが不一致)	もう一度最初からファイルチェックユーティリティを実行して下さい。
08	リストファイルの内容は一致しませんでした。(リストファイルチェックサムが不一致)	リストファイルチェックの照合の結果が一致しません。(リストファイルチェックサムが不一致)	もう一度最初からファイルチェックユーティリティを実行して下さい。
09	スクリプトファイルが見つかりません。	指定されたファイル名のスクリプトファイルが見つかりません。	スクリプトファイルのあるディレクトリを指定して下さい。
0A	スクリプトファイル構文エラー。	指定されたスクリプトファイルの構文に誤りがあります。	スクリプトファイルを正常に書き直して下さい。
0B	リストファイルの読み込みエラー。	リストファイルチェックで、リストファイル(FCHK.LOG)読み込み中に物理的エラーが発生しました。	再度プログラムを実行して下さい。
0C	不正なオプションです。	起動オプションが不正です。	起動オプションを見直して下さい。
0D	パラメータエラー。	指定されたパラメータに誤りがあります。	指定したパラメータを見直して下さい。
10	スクリプトファイル読み込みエラー。	スクリプトファイルのリード処理でエラーが発生しました。	再度プログラムを実行して下さい。
11	スクリプトファイルサイズの制限を超えました。	指定したスクリプトファイルサイズが、32001バイト以上です。	スクリプトファイルのサイズを32000バイト以下にしてください。
12	ロギングファイル数の制限を越えました。	ロギング対象ファイル数が、65001ファイル以上です。	ロギング対象ファイルの総数を65000以下にしてください。
13	指定されたリストファイルの出力パス名が見つかりませんでした。	指定された FCHK.LOG ファイル出力先パス名が見つかりません。	実際に存在するディレクトリを指定して下さい。

3-1-9.無線 LAN 設定ツール

ソフトウェア構成

- ・無線 LAN ドライバ ROM に既にインストールされています。
- ・機能設定ツール 無線 LAN に対する各種機能設定ツールは、コントロールパネル内にある標準の設定ツールが利用できます。
- ・電源設定ツール コントロールパネルにある「内蔵無線LAN電源」です。無線 LAN を使用する / しないの選択と、使用するにした時の電源モードを設定します。

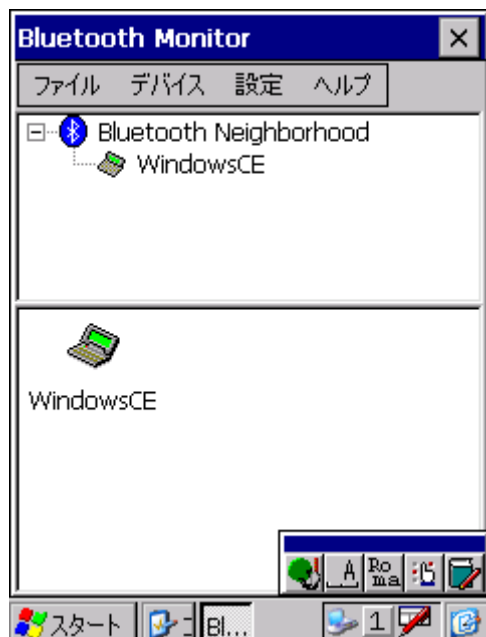


SS 無線 LAN の設定方法については別紙「SS 無線 LAN 導入マニュアル」をご参照ください。

3-1-10. Bluetooth 設定ツール

Bluetooth 設定ツールは、Bluetooth デバイスとの接続および設定を実行するためのツールです。

なお、各画面は仮のものです。

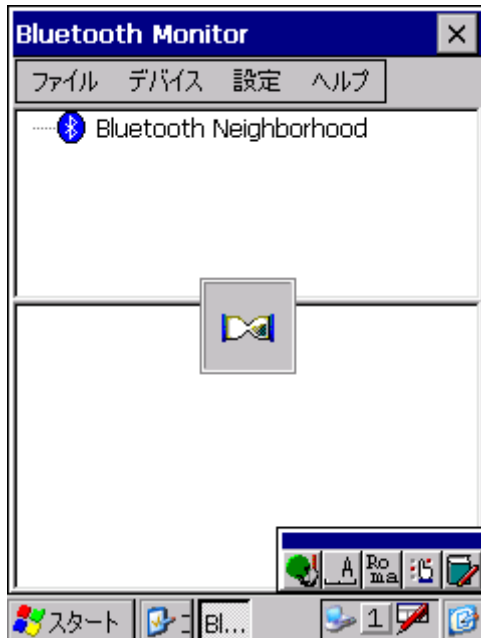


Bluetooth 設定ツールで使用可能なメニュー項目は以下の通りです。

[ファイル] - [終了]	アプリケーションの終了
[デバイス] - [プロパティ]	指定した Bluetooth デバイスのプロパティ表示
[デバイス] - [デバイスの信頼]	指定した Bluetooth デバイスのボンディング
[デバイス] - [ファイル送信]	指定した Bluetooth デバイスへのファイル送信
[デバイス] - [名刺交換]	指定した Bluetooth デバイスとの名刺交換
[デバイス] - [デバイスの探索]	Bluetooth デバイスの Inquiry(問い合わせ)
[デバイス] - [デバイスの追加]	Bluetooth デバイスの追加
[設定] - [デバイス名]	HT 本体の Bluetooth デバイスの設定
[設定] - [セキュリティ]	HT 本体の Bluetooth デバイスのセキュリティ設定
[設定] - [ツール設定]	Bluetooth 設定ツールの設定
[設定] - [Object Push]	Object Push の設定
[設定] - [表示]	Bluetooth デバイスのアイコン表示方法の設定
[設定] - [アイコンの整列]	Bluetooth デバイスのアイコンの並び方の設定
[設定] - [ツリーを表示]	Bluetooth デバイスのツリー表示の有無
[Help] - [バージョン情報]	バージョン情報の表示

(1) Bluetooth デバイスの Inquiry の実行

[デバイス]メニューから[デバイスの探索]を選択すると、Bluetooth デバイスの Inquiry (問い合わせ)を開始します (画面左)。Inquiry 終了後、発見された Bluetooth デバイスの情報を順番に取得します (画面右)。アプリケーション起動時に Inquiry を実行することが可能です。



(2) Bluetooth デバイスの追加

[デバイス]メニューから[デバイスの追加]を選択すると、Bluetooth アドレス入力画面が表示されます。Bluetooth アドレスを入力して[OK]ボタンをタップすると、Inquiry 実行時に発見されなかった Bluetooth デバイスを一覧に追加することができます。



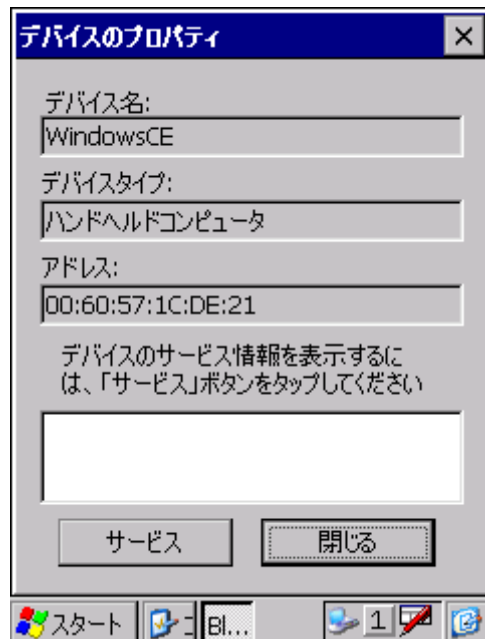
(3) Bluetooth デバイス情報の取得

画面に表示されている Bluetooth デバイスのアイコンを一つ選択して、[デバイス]メニューから[プロパティ]を選択すると、Bluetooth デバイスのプロパティが表示されます。

表示される項目は、以下の通りです。

- ・Bluetooth デバイス名
- ・Bluetooth アドレス
- ・Bluetooth デバイスタイプ

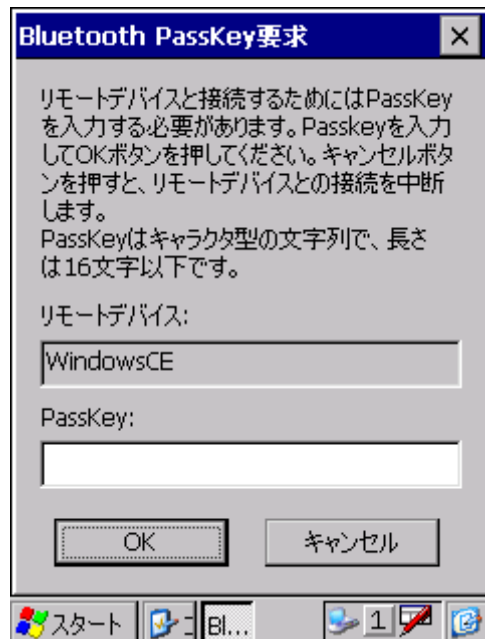
[サービス]ボタンをタップすると、Bluetooth デバイスのサービス情報を取得することができます。



(4) Bluetooth デバイスのボンディング

画面に表示されている Bluetooth デバイスのアイコンを一つ選択して、[デバイス]メニューから[デバイスの信頼]を選択します。しばらくすると、PassKey 入力要求の画面が表示されます。任意の PassKey を 16 文字以内で入力してください。ボンディングを実行する通信先の Bluetooth デバイスにも、同じ PassKey を入力してください。

ボンディングに成功すると、ボンディングを実行した Bluetooth 機器との接続時および通信時に、PassKey を要求されなくなります。

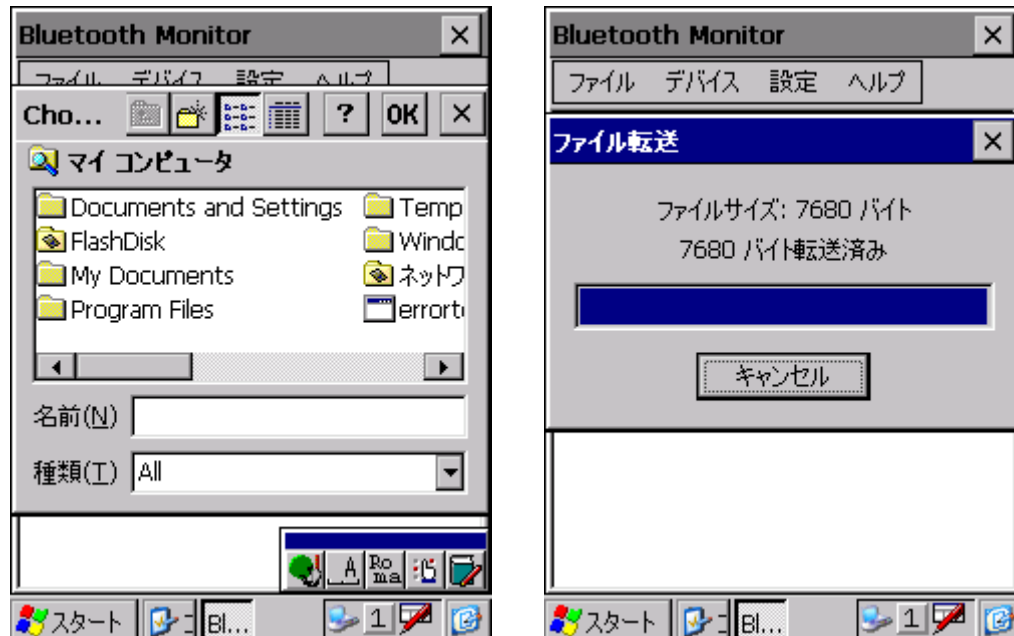


注意事項

通信先の Bluetooth デバイスによっては、PassKey が 4 桁までしか設定できない場合があります。通信する Bluetooth 機器の説明書も参照してください。

(5) Object Push プロファイルによるファイル送信

画面に表示されている Bluetooth デバイスのアイコンを一つ選択して、[デバイス]メニューから[ファイル送信]を選択すると、ファイル選択画面が表示されます(画面左)。ファイルを選択して[OK]ボタンをタップすると、ファイル送信進捗画面が表示され、ファイル送信を実行します(画面右)。



注意事項

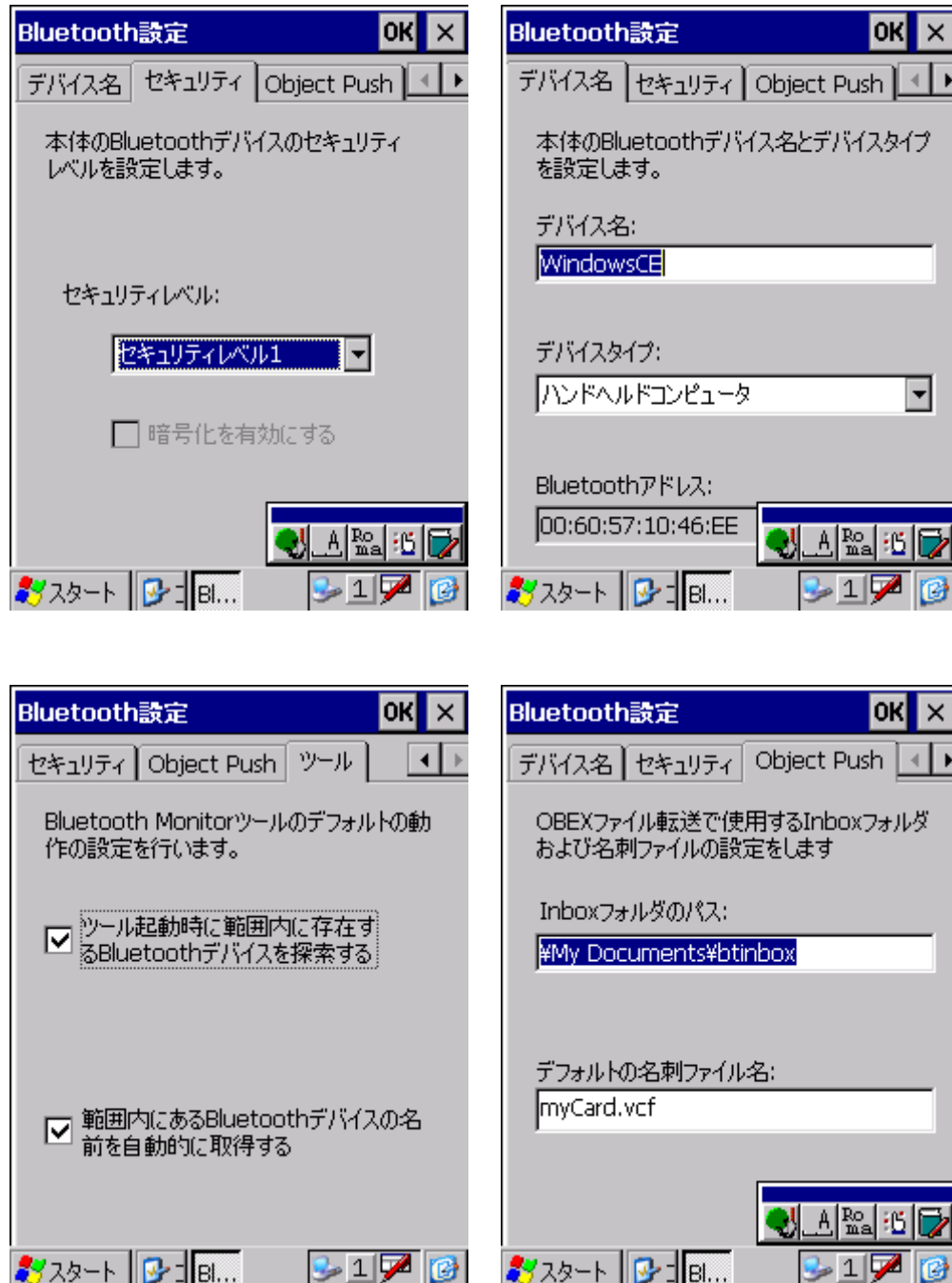
通信先の Bluetooth デバイスによっては、特定の拡張子のファイル(.vcf など)のみしか通信できない場合があります。通信する Bluetooth 機器の説明書も参照してください。

(6) HT 本体の各種設定

HT 本体の Bluetooth デバイスの各種設定をします。[設定]メニューから、以下の項目が選択可能です。

- [デバイス名] Bluetooth デバイス名および Bluetooth デバイスタイプの設定
- [セキュリティ] Bluetooth デバイスのセキュリティレベルの設定
- [ツール設定] Bluetooth 設定ツールの動作設定
- [Object Push] Object Push の Inbox および vCard の設定

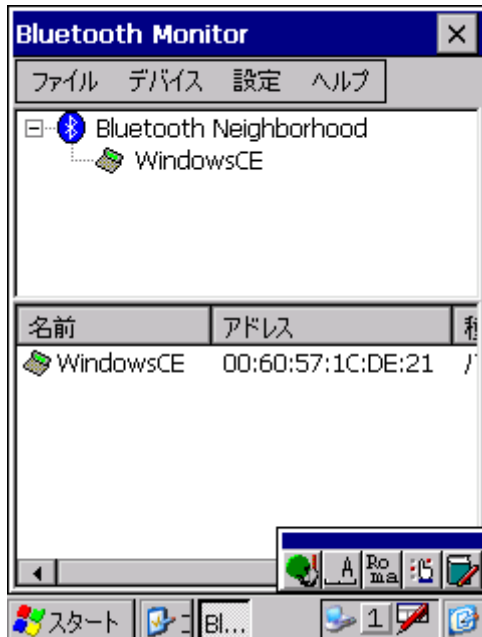
いずれかの設定用画面を表示した後、タブを切り替えて他の設定用画面を表示することが可能です。



(7) 画面表示設定

Bluetooth 設定ツールの画面表示の設定をします。[設定]メニューから、以下の項目が選択可能です。

- [表示] Bluetooth デバイスのアイコン表示方法の設定
[Large Icons] / [Small Icons] / [List] / [Detail]の中から選択します。
- [アイコンの整列] Bluetooth デバイスのアイコンの並び方の設定
[by Name] / [by Address] / [by Type]の中から選択します。
- [ツリーを表示] Bluetooth デバイスのツリー表示の有無の設定



アイコン表示を Detail にしたときの画面表示



ツリー表示を無しにしたときの画面

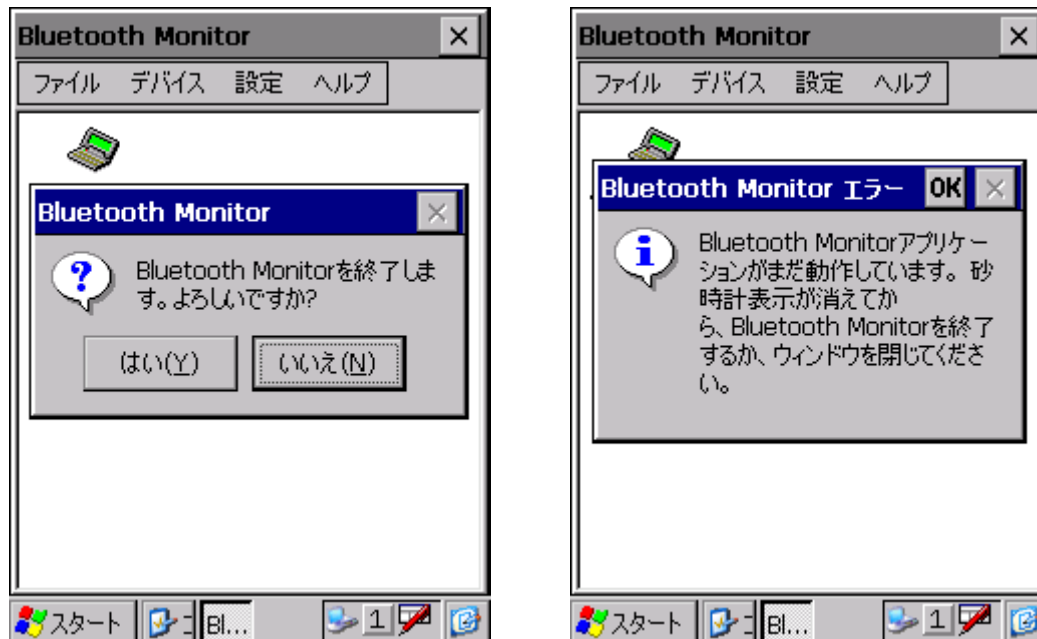
(8) バージョン情報の表示

[Help]メニューから[バージョン情報]を選択すると、バージョン情報を表示します。



(9) アプリケーションの終了

[ファイル]メニューから[終了]を選択すると、アプリケーション終了確認画面が表示されます。[はい]をタップすると、アプリケーションを終了します(画面左)。

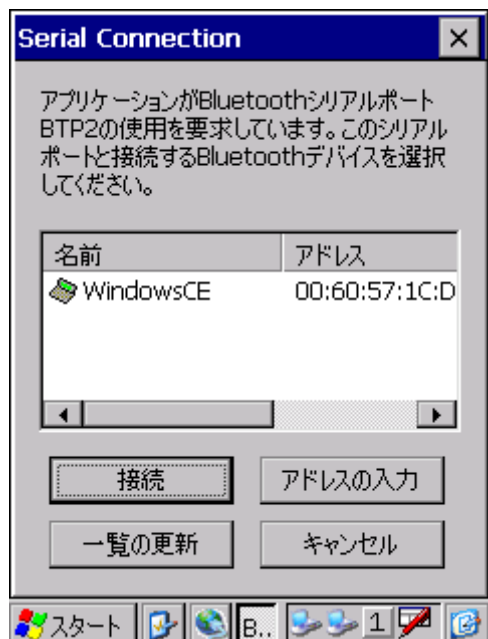


画面に砂時計が表示されている状態でアプリケーションを終了しようとした場合、エラーが表示され、アプリケーションは終了しません(画面右)。

(10) Bluetooth シリアル接続時の画面

Bluetooth シリアルポートを使用して通信を開始する場合、Bluetooth 携帯電話を使用してダイヤルアップ接続を行う場合、BluetoothLAN 接続を行う場合には、接続する Bluetooth 機器を選択するための画面が表示されます。

Bluetooth 機器との接続を行う場合は、一覧に表示されている Bluetooth 機器を一つ選択して、[接続]ボタンをタップします。Inquiry を実行して最新の Bluetooth 一覧を表示するには、[一覧の更新]ボタンをタップします。もし一覧に接続する Bluetooth デバイスがない場合は、[アドレスの入力]ボタンをタップして、Bluetooth アドレスを直接入力することにより、指定した Bluetooth デバイスと接続することが可能です。



(11) SR モード値の変更方法

参照レジストリ:

KEY: HKEY_LOCAL_MACHINE¥Drivers¥BuiltIn¥XCBTStack

Value: SRMode (DWORD)

参照した値と SR モードの関係:

設定値 (DWORD) 0 のとき: R0

設定値 (DWORD) 1 のとき: R1

設定値 (DWORD) 2 のとき: R2

レジストリが設定されていない場合、およびレジストリの値が不正なときは、SR モードは R0 に設定されます。

レジストリの内容を書き換えたならば、HT をリセット後よりモードが変更されて動作します。

3-1-11.2 Dスキャナアプリケーション

CMOS 2D スキャナを使用したアプリケーションとして、以下の3つを提供します。

- (1) バーコード・2次元シンボル読み取りアプリケーション:「TDRead.exe」
- (2) 読み取りパラメータ設定ツール:「TDSet.exe」
- (3) デモアプリケーション:「TDDemo.exe」

各アプリケーションの機能を以下に示します。

アプリ名/機能	シンボル読み取り	パラメータ設定	画像表示・保存	サインキャプチャ	ストリーミング
TDRead	1	×	×	×	×
TDSet	×		×	×	×
TDDemo		×	2	3	

- 1 読み取り結果はキャレットのある位置に出力されます
- 2 固定の画像サイズ、フォルダおよびファイル名で保存されます
- 3 固定のデモ用伝票のみで使用できます

また、各アプリケーションは全て本体にインストール済みで、別途、TDDemo.exe については、ソースコードを公開します。

(1) バーコード・2次元シンボル読み取りアプリケーションについて

(1)-1仕様

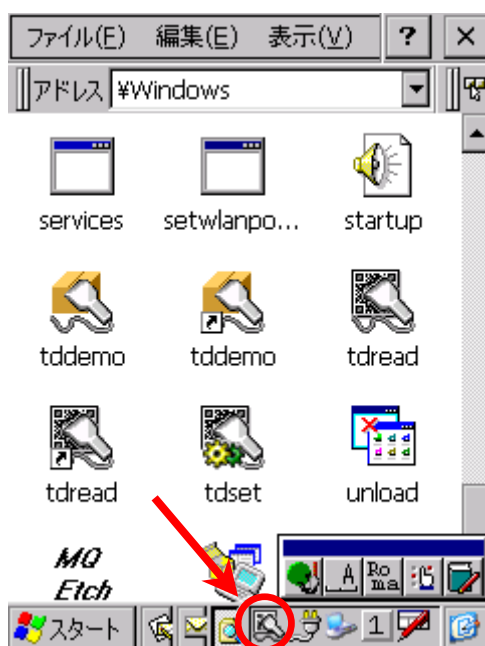
バーコードまたは2次元シンボルを読み取り、その結果をテキストデータとして出力するアプリケーションです。本アプリケーションは常駐ソフトとして使用し、読み取り結果をユーザアプリケーションやブラウザ等へ出力することを目的としております。ユーザが独自にアプリケーションを作成して2D スキャナを操作する場合は、このアプリケーションは使用しないでください。

また、出力はデータをクリップボードにコピーしてから、Control キー+'v'キーのキーボードイベントを実行して行っています。よって、上記のキーボード操作によりクリップボードのデータのペースト操作が行えないアプリケーションには出力することができません。

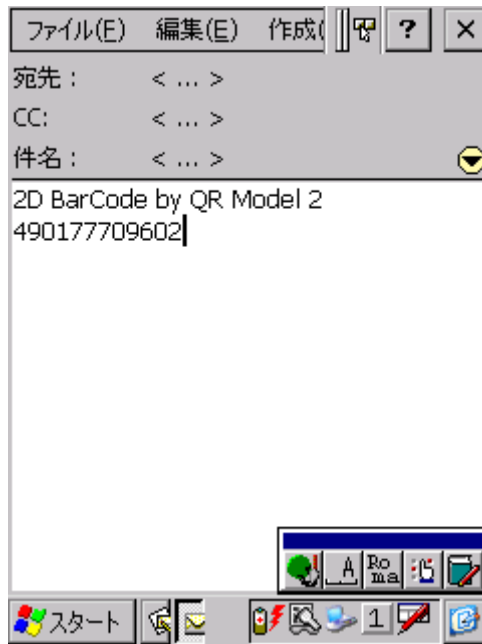
(1)-2使い方

- (1) アプリケーションを起動します。

タスクトレイに TDRread のアイコンが表示されます。



- (2) ユーザの運用アプリケーションを起動します。(本仕様書では受信トレイをユーザアプリケーションに見立てて説明します。)
- (3) トリガキーを押すと、スキャンが開始されます。トリガキーを離すか、トリガキーを押し続けた状態で、設定ツール「TDSet」で設定したタイムアウト時間を経過するとスキャンは終了します。スキャンしたデータがキャレットのある位置に出力されます。



- (4) タスクトレイのアイコンをタップすると、メニューが表示されます。

設定ツールでセットした設定の一部が表示されます。

各設定についての詳細な内容は TDSet の説明を参照してください。



- **ミリ秒** :読み取りタイムアウト時間を表します。
- 追加入力** :出力データの後に入力する追加文字を表します。
- LED** :読み取り完了後、LEDを点灯させるかどうかを表します。
チェックがついているとき、LEDを点灯させます。
- ブザー** :読み取り完了後、ブザーを鳴らすかどうかを表します。
チェックがついているとき、ブザーを鳴らします。
- 通常** :読み取りモードを表します。通常は通常読みモードを表します。
その他には、多段読みモード、一括読みモード があります。
- 読取回数** :連続読み取り段数を表します。トリガキーを押し続けている間に、
何個のシンボルを連続して読むかを表します。
- デフォルト** :スキャンモードを表します。屋外、屋内(窓際)、屋内、倉庫、ユーザ指定
など、各モードに応じた名前が表示されます。
- 終了** :アプリケーションを終了します。

(5) メニューの [終了] を選択し、アプリケーションを終了します。

注意1: 本アプリケーションはTDSetやTDDemoなど、スキャナを使用するアプリケーションと同時に起動することはできません。これらのようなアプリケーションを起動している場合、一度終了してから本アプリケーションを起動するようしてください。

(2) 読み取りパラメータ設定ツール

(2)-1 仕様

現在のバーコード・2次元シンボルの読み取りパラメータおよび動作設定を読み出し、ユーザ操作により変更することが可能なツールです。変更したパラメータはiniファイルとして保存でき、読み取りアプリケーション実行時に自動的に読み込まれます。

保存されるパラメータは以下の通りです。

バーコード・2次元シンボル読み取りパラメータ

読み取り許可 / 禁止

最小・最大桁数

チェックデジット計算

出力フォーマット など

動作パラメータ

デコードセンタリングモード設定

LED 強度調整 (エイミング LED、イルミネーション LED)

スキャンモード

印字濃度調整

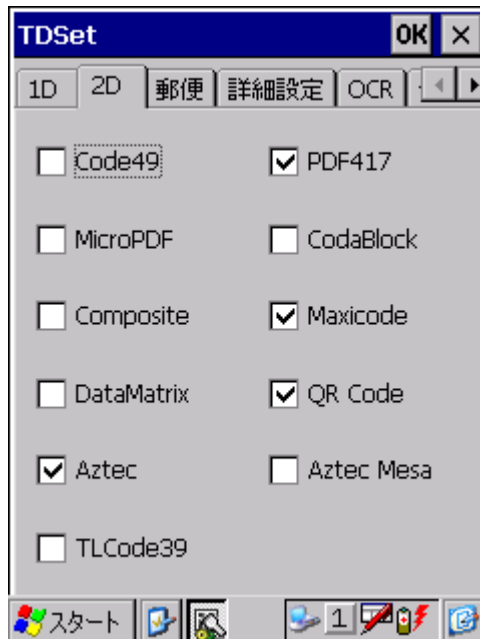
(2)-2 使い方

- (1) アプリケーションを起動します。
- (2) 各タブメニューから確認・変更したい項目を選択します。
- (3) [1D] タブを選択すると、1次元バーコードの読み取り許可設定を行うことができます。チェックをしたシンボルは読み取り有効、チェックをはずしたシンボルは読み取り無効となります。



- (4) [2D]タブを選択すると、2次元シンボルの読み取り許可設定を行うことができます。チェックをしたシンボルは読み取り有効、チェックをはずしたシンボルは読み取り無効となります。

(1D モデルでは設定できません。)

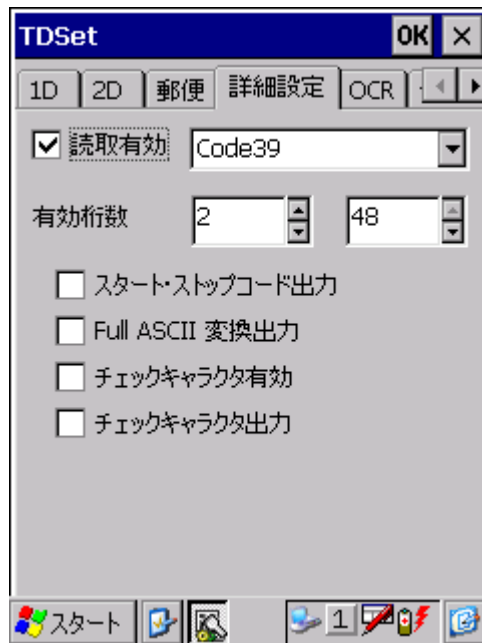


- (5) [郵便]タブを選択すると、郵便コードの読み取り許可設定を行うことができます。チェックをしたシンボルは読み取り有効、チェックをはずしたシンボルは読み取り無効となります。

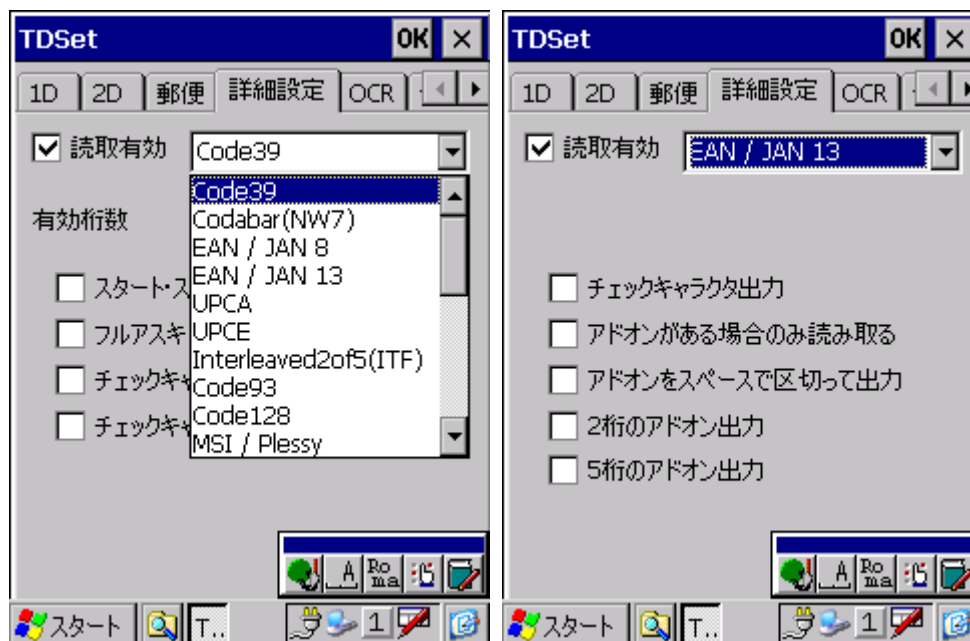
(1D モデルでは設定できません。)



(6) [詳細設定] を選択すると、各シンボルの読み取りの詳細な設定を行うことができます。



設定を変更したいシンボルをコンボリストボックスから選択します。選択したシンボルに対応した設定項目が表示されます。



読取有効:

読み取り許可状態を表します。

チェックされている時、読み取り許可状態を表し、チェックが外れている時、

読み取り禁止状態を表します。

読取有効の右のリスト:

設定の確認、変更を行いたいシンボルを選択します。

有効桁数:

読み取り有効桁数を指定します。指定された桁数以内のシンボルのみをスキャンし、

デコードします。

左のボックスが有効最小桁、右のボックスが有効最大桁を表します。

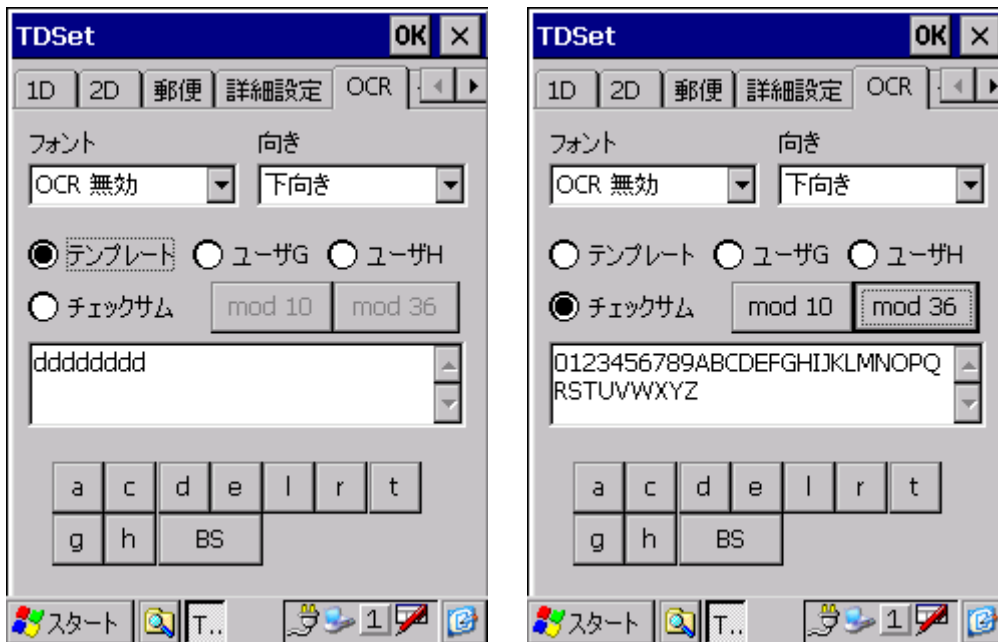
以下のチェックボックス:

チェックデジットの出力の有無、スタート・ストップコードの出力の有無等、

各シンボル別の詳細設定を表します。

(7) [OCR] を選択すると、OCR の読み取り設定を行うことができます。

(1D モデルでは設定できません。)



フォント:

読み取りを有効に設定したい OCR フォントの種類を選択します。選択できる

フォントは

OCR A

OCR B

OCR MONEY(ドル札に印字されている OCR)

の3種類です。同時に複数のフォントは選択できません。

向き:

読み取り対象となる OCR フォントが印字されている方向(縦書き、横書き等)

を指定します。

テンプレート、ユーザ G、ユーザ H、チェックサム:

各テンプレート(OCR の書式規則)の設定の切り替えを行います。

設定の確認、変更を行いたいテンプレートを選択します。

テンプレート:読み取り対象 OCR の書式を指定します。

ユーザ G:テンプレート内 'g' で指定する位置の文字を指定します。

ユーザ H:テンプレート内 'h' で指定する位置の文字を指定します。

チェックサム:OCR 読み取りの際のチェックサムを指定します。

これらは OCR の誤読を防ぐために設定します。

mod10, mod36 ボタン:

チェックサムをチェックすると押せるようになります。チェックサムの設定を入力する際に使用します。

mod10: "0123456789"と入力し、mod10 チェックサムに設定します。

mod36: "0123456789ABCDEFGHIJKLMNPOQRSTUVWXYZ"とし、mod36 チェックサムに設定します。

a ~ BS ボタン:

テンプレートを入力する際にキーボードの代わりに使用します。各ボタンをタップすると、上のボックスに文字が入力されます。テンプレート内の各アルファベットは次のような意味を表します。

a: アルファベットと数字

"0123456789ABCDEFGHIJKLMNPOQRSTUVWXYZ"のいずれかを表します。

c: チェックキャラクタ

チェックサム計算を行う箇所を指定します。

d: 数字

"0123456789"のいずれかを表します。

e: アルファベットと数字と記号

OCR A: "0123456789ABCDEFGHIJKLMNPOQRSTUVWXYZ()<>/¥+-\$"

OCR B: "0123456789ABCDEFGHIJKLMNPOQRSTUVWXYZ()<>^+-\$"

OCR MONEY: "0123456789ABCDEFGHIJKLMNPOQRSTUVWXYZ"

のいずれかを表します。

l: アルファベット

"ABCDEFGHIJKLMNPOQRSTUVWXYZ"のいずれかを表します。

r: 複数行ある文字列の場合の改行位置指定

t: 複数 Template を指定する場合の Template と Template の区切り位置

g: ユーザ指定(グループ G)の文字の位置を表します。

h: ユーザ指定(グループ H)の文字の位置を表します。

BS: バックスペースを入力します。

例1) 数字が 8 つ連続して並び文字列のみを読む場合

テンプレート: dddddddd

37680981

例2) 特定の文字が特定の位置にある文字列のみを読む場合

テンプレート: dddABCddd

数字 3 つ、"ABC"、数字 3 つと連続して並びものだけを読みます。テンプレートにアルファベットの大文字を指定した場合、その位置にその文字が記述されている場合のみ読み取ります。

551ABC983

例3) スペースを含む文字列を読む場合

テンプレート: ddd ABC ddd

数字 3 つ、スペース、"ABC"、スペース、数字 3 つと連続して並びものだけを読みます。テンプレートにはスペースを指定することが出来ます。

551 ABC 983

例4) 複数のテンプレートパターンの文字列を読む場合

テンプレート: dddddddtddddlldd

数字 8 つ連続で並び場合、または数字 4 つ、アルファベット 2 つ、数字 2 つの並びの場合だけ読みます。t を指定することで複数の Template を同時に指定することが出来ます。

99028650 or 9902XZ50

例5) 特定の位置に特定の文字がある場合で、複数のパターンを読む場合

ユーザ G: ABC

テンプレート: ddddddggg

数字 6 つ連続で並び、その後に g の位置に A or B or C が記述されている場合のみ読みます。ユーザー定義 (ユーザ G, ユーザ H) を利用することで、特定の位置に特定文字を複数指定することができます。

654321ABC or 654321BAC or 654321CCC

例6) 複数行の文字列を読む場合

テンプレート: ddddddrrllllllrlllddd

数字 8 つ連続で並び、アルファベット 8 つが連続で並び、アルファベットが 4 つのあとに数字が 4 つ並びの計 3 列の文字列のみを読みます。テンプレートに r を指定することで、複数行の文字列を読むことができます。

12345678

ABCDEFGH

ABCD1234

例7) チェックサム計算を利用する場合

テンプレート: ddddddcd

チェックサム: 0123456789 (mod10 チェックサム)

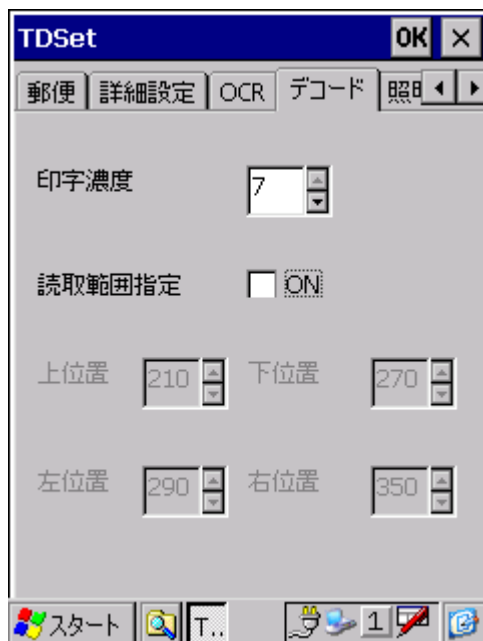
d の位置にある数字 7 つの合計を s とした時、次の数式を満たす場合にのみ読みます。誤読を防ぐのに利用することができます。

$$(c \text{ の位置の数字}) = 10 - (s / 10 \text{ の余り})$$

(10 は mod10 設定の 10)

12345672

- (8) [デコード] を選択すると、バーコードシンボルをスキャンしてデコードする際のスキャナの設定を行うことができます。



印字濃度:

読み取り対象となる印刷物の印字濃度を表します。

1～7の範囲で指定します。値を大きく設定した場合、濃く印刷されたシンボルの読み取り精度が向上します。値を小さく設定した場合、薄く印刷されたシンボルの読み取り精度が向上します。

読取範囲指定:

読み取りを有効にしたい範囲を指定します。

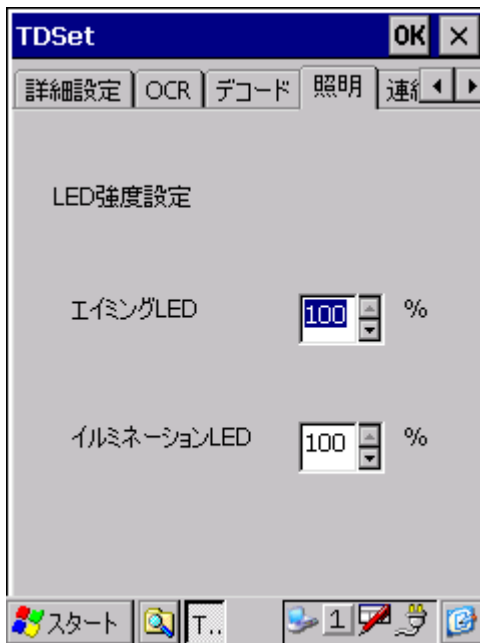
Enable にチェックした場合、スキャンの際に撮影した画像において、指定した範囲に含まれるシンボルに対してのみ読み取りを行います。指定した範囲外に位置するシンボルは読み取りません。

上位置、下位置、左位置、右位置:

読み取りを有効にする範囲を指定します。

全範囲指定(最大範囲)は Top: 0 Bottom:479 Left:0 Right:639 となります。

- (9) [照明]タブを選択すると、LED の強度の設定を行うことができます。



エイミング LED:

エイミング LED(位置合わせ LED)の強度を表します。

0 ~ 100%の範囲で指定します。

イルミネーション LED:

イルミネーション LED(照明 LED)の強度を表します。

0 ~ 100%の範囲で指定します。

(10) [連続読み] タブを選択すると、多段読み設定画面が表示されます。



デコードモード選択:

TDRead の読み取りモードを設定します。

通常 : 通常読みモード

多段読み: 多段読みモード

トリガキーを押している間、連続して読み続けます。1 回読むごとに結果を出力します。

一括読み : 一括読みモード

トリガキーを押している間、連続して読み続けます。

連続読み終了時に一括して結果を出力します。

指定段数のシンボルを読み取り終わる前に、トリガキーを離すか、またはタイムアウトした場合、結果は出力されません。

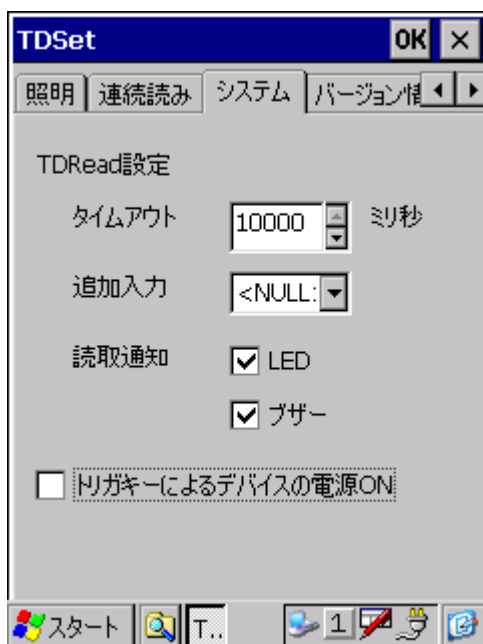
段数:

多段読みモード、または一括読みモードの時、連続していくつのシンボルを読み取るかを設定します。

区切り文字:

一括読みモードの時、出力メッセージ中のデコード結果とデコード結果の区切り文字を設定します。

- (11) [システム]タブを選択すると、読み取りアプリケーション TRead の設定とシステムの起動方法の設定を行うことができます。



タイムアウト:

TRead の読み取りタイムアウト時間を設定します。スキャン実行中に、トリガキーを離すか、タイムアウト時間経過すると読み取りは停止します。

250 ~ 10000(ミリ秒)の範囲で、250 ミリ秒単位で指定します。

追加入力:

TRead の出力結果の後に追加する文字(キー入力)を指定します。

読取通知:

読み取り完了時の通知の有無を設定します。

LED: 読み取り完了時に LED を点灯させるかを設定します。

ブザー: 読み取り完了時にブザーを鳴らすかを設定します。

トリガキーによるデバイスの電源 ON:

トリガキーをハンディの電源オンボタンに設定します。

チェックをした場合、トリガキー L(または R)を押すことでハンディの電源をオンできる状態になります。

- (12) [バージョン情報] タブを選択すると、アプリケーションのバージョン情報と、ライブラリのバージョン情報が表示されます。



- (13) 全ての変更が終わったら、アプリケーションの右上にある OK ボタンをタップして設定をファイルに保存し、アプリケーションを終了します。保存先のファイルは FlashDisk\CASIO フォルダの TDSet.ini となります。
- (14) 設定の変更を保存しない場合は、アプリケーションの右上にある × ボタンをタップして、アプリケーションを終了します。

注意 1: 本アプリケーションは TRead や TDDemo など、スキャナを使用するアプリケーションと同時に起動することはありません。これらのようなアプリケーションを起動している場合、一度終了してから本アプリケーションを起動するようにしてください。

(3) デモアプリケーション

(3)-1 仕様

CMOS 2D スキャナを使用した、一般的な機能を紹介するデモアプリケーションです。

本アプリケーションはデモ用に使用することを目的とし、ユーザがこのまま使用することは考慮しておりません。

(3)-2 使い方

- (1) アプリケーションを起動します。
- (2) メニューからデモをする機能を選択します。

バーコード・2次元シンボル読み取り

[ファイル]→[バーコード読み取り]選択でバーコード読み取り待機状態となります。

トリガキー入力によりシンボルを読み取り、結果とコードの種類、読み取り桁数を表示します。

OCR B, OCR MONEY を除く全てのシンボルが読み取り有効となります。



イメージキャプチャ・保存

[ファイル]→[画像キャプチャ]選択で、キャプチャ待機状態になります。トリガキー入力により、キャプチャを行い、画面に表示します。キャプチャのサイズは 640×480、表示サイズは 240×160 となります。

また、[ファイル]→[キャプチャ保存]選択で、キャプチャ保存待機状態になります。トリガキーを押すことで、キャプチャを行い、画面に表示し、ビットマップファイルに保存します。保存サイズは 320×240、保存ファイル名は My Documents¥TDDemo¥Picture**.bmp (**に数字が入る)となります。



ストリーミング

[ファイル]→[動画キャプチャ]選択で、ストリーミング待機状態となります。

トリガキーを押すと、連続して画面を表示します。

もう一度トリガキーを押すと停止します。

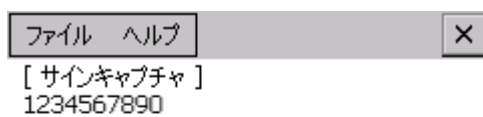
キャプチャサイズは 640 × 480、表示サイズは 160 × 120 です。



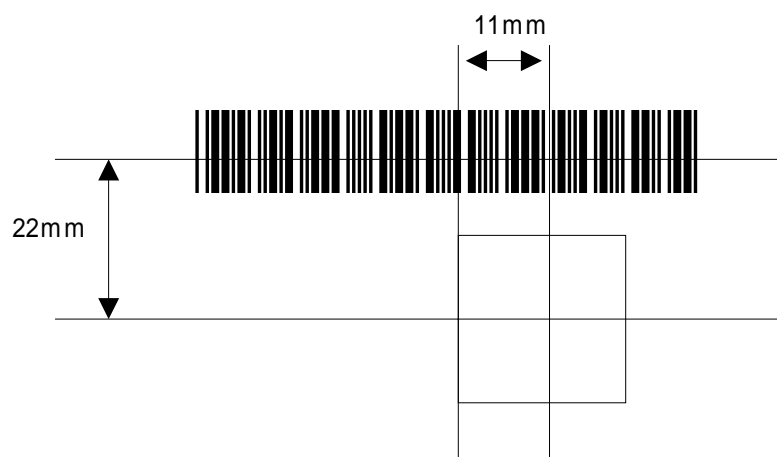
サインキャプチャ

[ファイル]→[サインキャプチャ]選択で、サインキャプチャ待機状態となります。

トリガキー入力により、デモ用伝票にあるバーコードとサインをスキャンし、バーコードの内容と切り出したサインを表示します。



デモ用伝票の仕様



シンボルの分解能は 0.33mm、アスペクト比(細バーの縦横比)は 30 です。
各直線はシンボルの縦・横の中心線とキャプチャ領域の縦・横の中心線です。
シンボルとキャプチャ領域の位置関係が上記の図の条件を満たす場合、
TDDemo でのサインキャプチャが行えます。

バージョン情報

[ヘルプ]→[バージョン情報]を選択するとバージョン情報が表示されます。



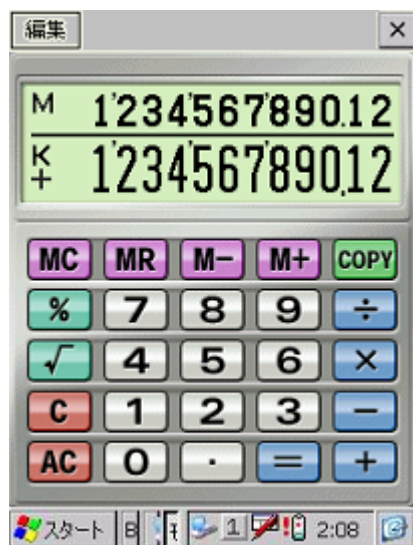
- (3) アプリケーションの右上にある×ボタンをタップして、アプリケーションを終了します。

注意：本アプリケーションはTDDReadやTDDSetなど、スキャナを使用するアプリケーションと同時に起動することはできません。これらのようなアプリケーションを起動している場合、一度終了してから本アプリケーションを起動するようにしてください。

3-1-12.電卓

電卓は、12桁の電卓アプリケーションです。

基本計算、定数計算、逆数計算、開平計算、パーセント計算の各種演算機能をサポートします。



表示領域の上段にはメモリー内容を、下段には計算値(演算時の四則演算符号と定数(K)を含む)を表示します。

[COPY]ボタンを押すと計算値をクリップボードにコピーします。

画面右上の[×]ボタンを押すと電卓を終了します。

メニューの構成は以下のとおりです。

[編集] - [コピー]: 計算値をクリップボードにコピー

[編集] - [バージョン情報]: バージョン情報表示

演算仕様はカシオ電卓に準拠します。具体的な操作仕様について説明します。

基本計算

例題	操作	表示窓
52+123-63=113	53+ 123- 63=	+ 53. - 176. 113.
2.3 × 6 × 5.2=71.76	2.3 × 6 × 5.2=	71.76
(56 × 3 - 89) ÷ 5.2 + 63 = 78.1923076923	56 × 3 - 89 ÷ 5.2 + 63 =	78.1923076923
1234567890 × 741852 = 915867892900170	1234567890 × 741853 =	E 915.867892900

定数計算

例題	操作	表示窓
12+23=35	23 + + 12 =	K + 35.
45+23=68	45 =	K + 68.
7-5.6=1.4	5.6 7 =	K - 1.4
2-5.6=3.6	2 =	K - -3.6
2.3 × 12=	12 × × 2.3 =	K × 27.6
4.5 × 12 = 54	4.5 =	K × 54.
45 ÷ 9.6 = 4.6875	9.6 ÷ ÷ 45 =	K ÷ 4.6875
78 ÷ 9.6 = 8.125	78 =	K ÷ 8.125
17 + 17 + 17 + 17 = 68	17 + + = =	K + 68.
(2.3) ⁴ = 27.9841	2.3 × × = = =	K × 27.9841

逆数計算

例題	操作	表示窓
45 ÷ 9.6 = 4.6875	9.6 ÷ ÷ 45 =	K ÷ 4.6875

開平計算

例題	操作	表示窓
$\sqrt{5} = 2.23606797749$	$5 \sqrt{\quad}$	2.23606797749
$\sqrt[4]{81} = 3$	$81 \sqrt{\quad} \sqrt{\quad}$	3.
$(\sqrt{2} + \sqrt{3}) \times 3 =$	$2 \sqrt{\quad} + 3 \sqrt{\quad} \times 3 =$	9.43879310979

パーセント計算

例題	操作	表示窓
割合 1500 円の 26% は	$1500 \times 26\%$	390.
割増し 3620 円の 15% 増しは	$3620 \times 15\% +$	4163.
値引き 4750 円の 4% 引きは	$4750 \times 4\% -$	4560.
比率 75 個は 250 個の何% か	$75 \div 250\%$	30.
変化率(増減比率) 141 万円は 120 万円の何% アップか 240 円は 300 円の何% 引きか	$141 - 120\%$ $240 - 300\%$	17.5 -20.
売価設定 仕入価格 3540 円の品物に、売価の 25% の利益を見込んだとき、売価 および利益額は	$3540 + 25\%$ (続けて) -	4720. 1180.

メモリー計算

例題	操作	表示窓
$80 \times 9 = 720$ -) $50 \times 6 = 300$ <u>$20 \times 3 = 60$</u> (合計) 480	AC MC 80×9 M+ 50×6 M- 20×3 M+ MR	M 720. M 300. M 60. M 480.
$(2 \times 3) + (2 \times 3) + 4.5 + 4.5 - 4.5 = 16.5$	AC MC 2×3 M+ M+ 4.5 M+ M+ M- MR	M 16.5
$193.2 \div 23 = 8.4$ $193.2 \div 28 = 6.9$ $123 - 193.2 = -70.2$	AC MC 193.2 M+ $\div 23 =$ MR $\div 28 =$ $123 -$ MR $=$	M 8.4 M 6.9 M -70.2
$\frac{9 \times 6 + 3}{8 \times (7 - 2)}$	AC MC $7 - 2 \times 8$ M+ $9 \times 6 + 3 \div$ MR =	M 1425.

エラー計算

例題	操作	表示窓
$1234567890 \times 741852 =$ 915867892900170	$1234567890 \times 741853 =$	E 915.867892900

桁オーバーになると「E」を表示し、小数点は「億の位」を表示します。

「E」表示後、計算を続ける時は[C]ボタンを、新たな計算を始めるときは[AC]ボタンを押します。

3-1-13.本体コピーツール

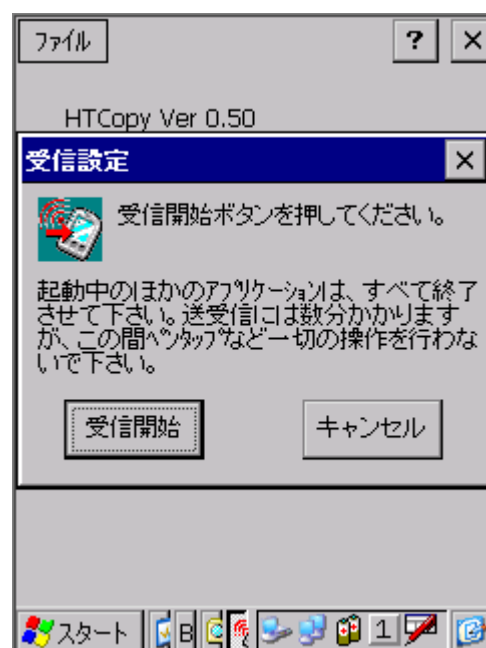
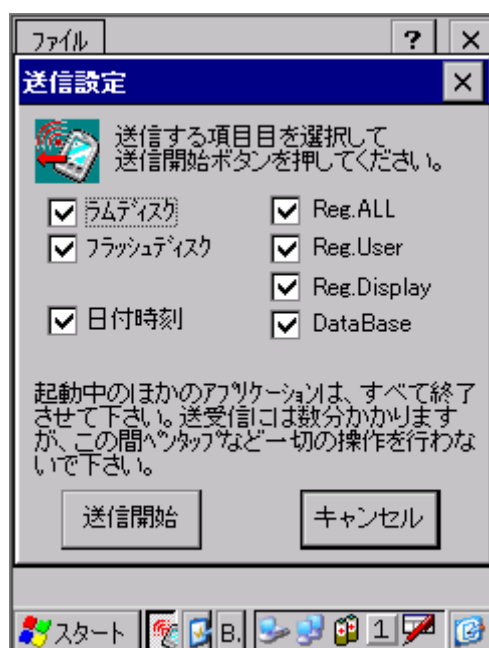
本体コピーツール(HTCopy.exe)は、簡単に子機を作成するためのツールです。

セットアップされたマスタからその内容を、そのまま子機へ赤外線を使用してコピーします。

コピーできる内容は、以下のとおりです。

- ・RAM上に存在しているファイル
- ・FlashDisk上に存在しているファイル
- ・レジストリ情報(各種設定情報)
- ・データベース情報(Inbox等の情報)

[スタート]-[プログラム]-[ユーティリティ]-[本体間コピー]を選択して起動します。



送信側の端末は[送信]ボタンのタップにより表示される送信設定ダイアログで送信するファイル及びレジストリをチェックします。

[送信開始]ボタンをタップすると、送信内容をチェックした後、送信を開始します。

なお、送信設定ダイアログで設定できる内容は以下のとおりです。

- ・ラムディスク …… RAM 内にあるファイル
- ・フラッシュディスク …… FlashDisk 内にあるファイル
- ・日付時刻 …… 日付時刻に関するファイル
- ・Reg.ALL …… 全てのレジストリ情報 (Reg.User と Reg.Display も自動的にチェックされます)
- ・Reg.User …… ユーザレジストリ情報
- ・Reg.Display …… その他のレジストリ情報
- ・DataBase …… Inbox 等のデータベース

受信側の端末は[受信]ボタンのタップにより表示される受信設定ダイアログで、[受信開始]ボタンをタップすると受信を開始します。

メニュー構成は以下のとおりです。

- [ファイル]-[送信] …… 送信設定ダイアログを表示します
- [ファイル]-[受信] …… 受信設定ダイアログを表示します
- [ファイル]-[閉じる] …… 本体コピーツールの実行を終了します

3-1-14.ブザー設定

コントロールパネル内にある、ブザーに関する設定を行うツールです。

アラーム音、警告音、スキャナ読み取り完了音、ユーザ指定音の各々について、3段階で音量を設定します。



3-1-15. IME 設定ツール

< 概要 >

このプログラムは、ServicePack1 をインストールすることで追加されるプログラムです。

以下の設定については ServicePack1 がインストールされていることを前提としています。

本ツールは通常の Pocket IME 2.0 に以下の機能を追加したものです。

- ・IME ツールバー (ステータスバー) を非表示にすることができるようになります。
- ・コントロールパネルより、IME ツールバーの表示/非表示を切り替えられます。

IME ツールバー表示/非表示の仕様は、PC 用 Windows の IME とは異なりますので注意してください。

DT-870 IME パッチの仕様	PC 用 Windows の IME の仕様
IME のオン/オフに関係なく IME ツールバーは表示/非表示となります。 このため、IME ツールバーが表示されていなくても漢字変換などが可能です。	IME をオンすると IME ツールバーが表示され、オフする(直接入力に切り替え)と非表示になります。

< ファイル構成 >

DT-870 IME パッチプログラムは、以下のファイルから構成されます。

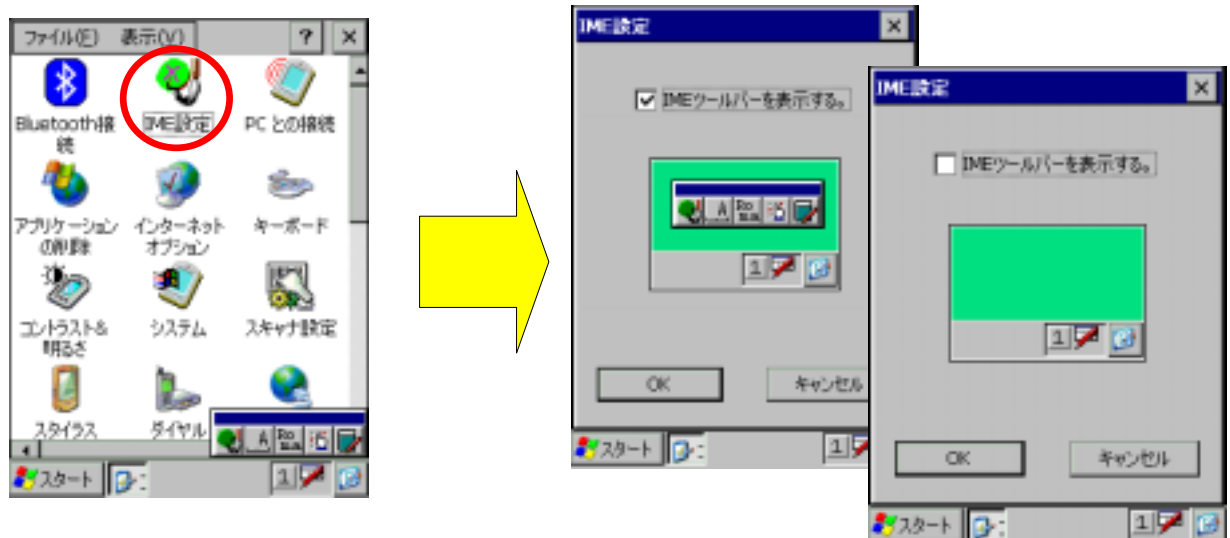
種別	ファイル名	説明
コントロールパネル	SetIme.cpl	コントロールパネルファイルです。"Windows"フォルダの下に置いてください。
	ImeUtil.exe	コントロールパネルから呼び出される IME 設定プログラムです。"Windows"フォルダの下に置いてください。
IME UI ファイル	imejppui.dll	IME のユーザーインターフェース部分の処理を行うプログラムです。"Windows"フォルダの下に置いてください。

<IME ツールバー表示切り替え方法>

コントロールパネルによる IME ツールバー表示切り替え

コントロールパネルを用いて IME ツールバーの表示/非表示を切り替えることができます。

『コントロールパネル』を開き、『IME 設定』を開きます。『IME ツールバーを表示する』のチェックの有無を設定し OK を押すことで反映されます。



アプリケーションプログラムからの IME ツールバー表示切り替え

レジストリ操作および IMM API を使用することにより、アプリケーションプログラムから IME ツールバーの表示/非表示を切り替えることができます。

(1) レジストリの IME 設定値を以下のように変更します。

キー	HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\CASIO\ImePatch	
値	DispStatusBar (DWORD)	0 : IME ツールバー非表示 1 : IME ツールバー表示

(2) IMM API の ImmOpenStatus()関数をコールして、IME のオン/オフを切り替えます。

以下のように、いったん IME をオフ(オン)してからオン(オフ)してください。

```
// IME をオンする場合
ImmSetOpenStatus( hWnd, FALSE); // IME OFF
ImmSetOpenStatus( hWnd, TRUE); // IME ON

// IME をオフ(直接入力)する場合
ImmSetOpenStatus( hWnd, TRUE); // IME ON
ImmSetOpenStatus( hWnd, FALSE); // IME OFF
```

これにより、IME ツールバーの表示、非表示が切り替えられます。

< サンプルプログラム >

eMbedded C/C++を用いた場合のサンプルプログラムを以下に示します。

```
// IME ツールバーの表示/非表示を切り替えます
// bDisp=TRUE(表示), FALSE(非表示)
VOID SetImeToolBar( BOOL bDisp)
{
    HKEY hKey;
    DWORD dwDisp;

    if ( bDisp)
        dwDisp = 1;
    else
        dwDisp = 0;

    // レジストリを設定します
    RegOpenKeyEx( HKEY_LOCAL_MACHINE, TEXT("SOFTWARE\CASIO\ImePatch"),
        0, KEY_READ, &hKey);
    RegSetValueEx( hKey, TEXT("DispStatusBar"), 0, REG_DWORD,
        (LPBYTE)&dwDisp, sizeof( DWORD));
    RegCloseKey( hKey);

    // いったん IME をオフしてから IME をオンします。
    ImmSetOpenStatus( NULL, FALSE);
    ImmSetOpenStatus( NULL, TRUE);
}
```

< 注意事項 >

IME 表示中、非表示中にかかわらず、テンキーを使用すると IME の入力モードは強制的にテンキー(めくりキー)の入力モードに切り替えられます。たとえば、IME 入力モードが「ひらがな」めくりキーのモードが「直接入力」のときにテンキーを押すと、IME は強制的に「直接入力」モードになります(オフされます)。

3-2.ホストユーティリティ

CASIO が提供する PC 上で実行する Application について説明します。

3-3-1.LMWIN

FLINK による Up/Downloader ツールです。

LMWIN は、簡単なスクリプト記述で PC/ハンディターミナル間でファイル送受信が可能な通信ユーティリティソフトです。

このツールを利用するには別途ご購入していただく必要があります。

HANDY TERMINAL DT-870

カシオ計算機株式会社

〒151-8543 東京都渋谷区本町 1-6-2

システムソリューション営業統轄部

TEL : 03-5334-4638